ISSN 0286-5424

京都府埋蔵文化財情報

第 77号

佐山遺跡の発掘調査 ---------- 竹原　一彦・野々口陽子 -- 1

織部雑記－京都府庁出土の織部向付を中心に－---------- 小山　雅人 -- 7

平成12年度発掘調査略報 ---------- 17

1．沖田遺跡　　4．善願寺遺跡第2次

2．梯木林遺跡　　5．稲葉遺跡第6次

3．南稲葉遺跡　　6．大畠遺跡第5次

府内遺跡紹介　88．私市円山古墳　－遺跡公園の可能性－---------- 27

長岡京跡調査だより・74 ---------- 29

センターの動向 ---------- 31

受贈図書一覧 ---------- 33

2000年 9月

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

佐山（さやま）遺跡の発掘調査

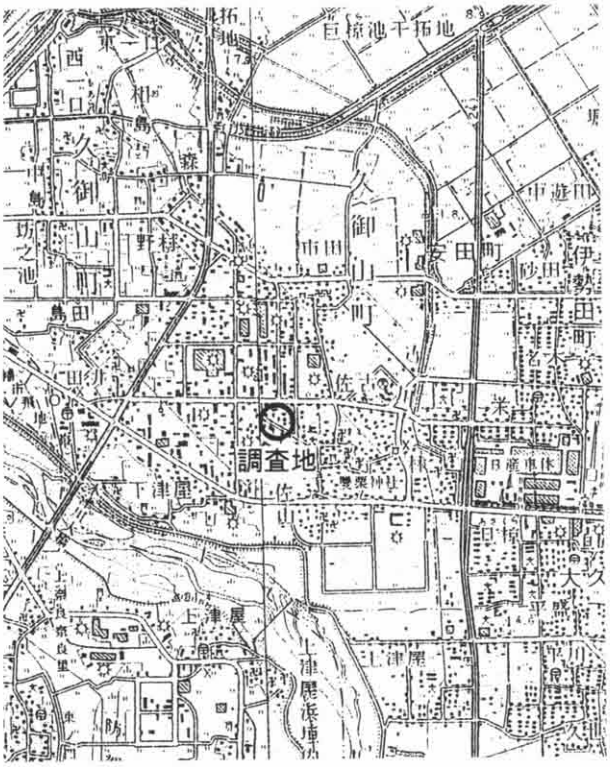
竹原　一彦・野々口陽子

1．はじめに

佐山遺跡は久世郡久御山町佐古小字外屋敷、佐山小字新開地に所在する。久御山町域は、山城盆地中央部で最も標高が低く、旧巨椋池などの地勢的要因から、多くの遺跡が存在することは、これまであまり考えられていなかった。また、戦前の京都飛行場建設、戦後の工業団地造成に伴う厚い盛土が広範囲におよび、遺跡の存在が容易に判明しない地域であった。当調査研究センターは、建設省と日本道路公団が進める国道１号京都南道路および第二京阪自動車道路建設に伴い、路線計画地内に存在する市田斉当坊遺跡・佐山遺跡・佐山尼垣外遺跡の発掘調査を実施してきている。佐山遺跡は、平成９年度に試掘調査を、平成11年度に遺跡北部のＡ－１地区で上層遺構（中世）の発掘調査（第１次調査）を実施した。第１次調査では、条里境・坪境の道路跡など久世郡条里関連遺構を検出し、多くの成果を得ることができた。

2．調査の概要

本年度は、第２次調査としてＡ－１地区下層とＡ－２地区・Ｂ地区の調査を実施している。



第１図　佐山遺跡位置図（1/50,000）

本稿では、調査を終えたＡ－１地区下層の弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡について、概略を報告する。

集落関連遺構は、削平を免れた中世島畠上から検出した。検出遺構には、竪穴式住居跡・土坑・溝などがある。島畠は、東西18ｍ×南北40ｍの規模を測り、重複関係にある竪穴式住居跡23基が存在した。また、調査地東端と南端で竪穴式住居跡を各１基検出し、総数は25基となった。

(1)弥生時代後期中葉の主な遺構

竪穴式住居跡ＳＨ94　調査区中央西端で検出した方形の住居跡である。住居床面の一部を検出したもので、規模は一辺約6.2ｍを測る。柱穴は２か所で確認しており、本来、４本の柱で構築されたものとみられる。床面で

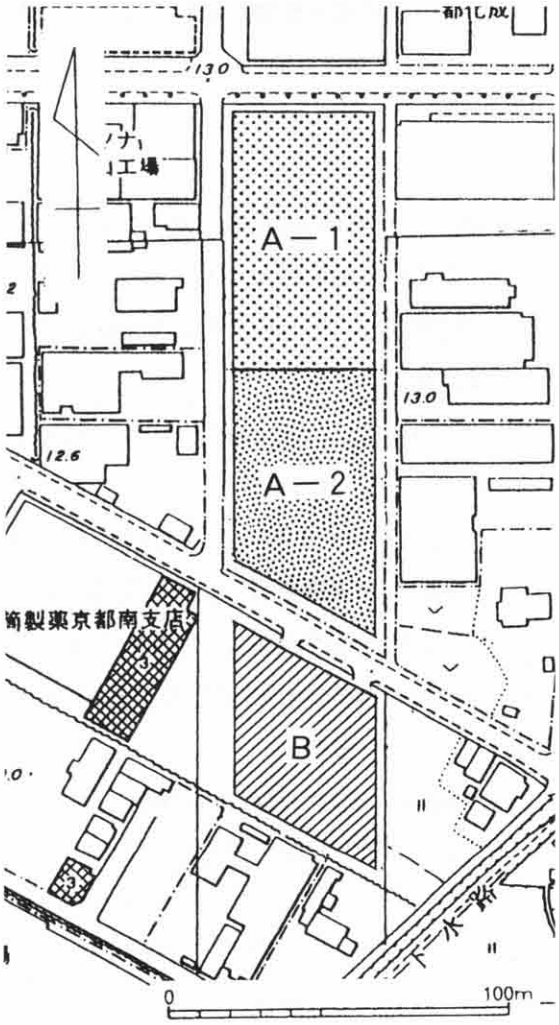
は、周壁溝や土坑および焼土などは検出されなかった。出土遺物は、床面直上でほぼ完形に近い無頸壺や器台が出土しており、後期中葉前半の住居跡と推定される。A－1地区では、最も古い時期の住居跡である。

(2)弥生時代後期末～古墳時代初頭の主な遺構

竪穴式住居跡ＳＨ95　調査区中央北寄りで検出した方形の住居跡である。竪穴式住居跡ＳＨ99に、床面の一部を削平される。規模は約7.0m×6.8m、検出面から床面までの深さは約20cmを測る。柱穴は7か所で検出しており、対角線上の4か所が主柱穴となるものとみられる。また、中央では、炉跡の可能性がある径約1.1mの黒灰色砂質土の広がりを確認した。床面から、第Ⅴ様式系甕や鉢の一部が出土している。

竪穴式住居跡ＳＨ99　竪穴式住居跡ＳＨ95の東側で検出した住居跡である。床面は、約3.7m×5.5mの長方形を呈し、深さ約35cmを測る。主柱穴は7か所で検出した。床面中央付近に直径約0.4mの焼土の広がりがあり、炉跡と推定される。床面から、庄内式甕や第Ⅴ様式系タタキ甕の破片が出土している。

土坑ＳＫ82　規模約1.4m×1.65m・深さ約30cmの方形の土坑である。埋土には炭化物が含まれ、多くの土器片が出土している。庄内式甕のほか、小形器台などが出土しているが、完形となる個体はほとんどみられない。

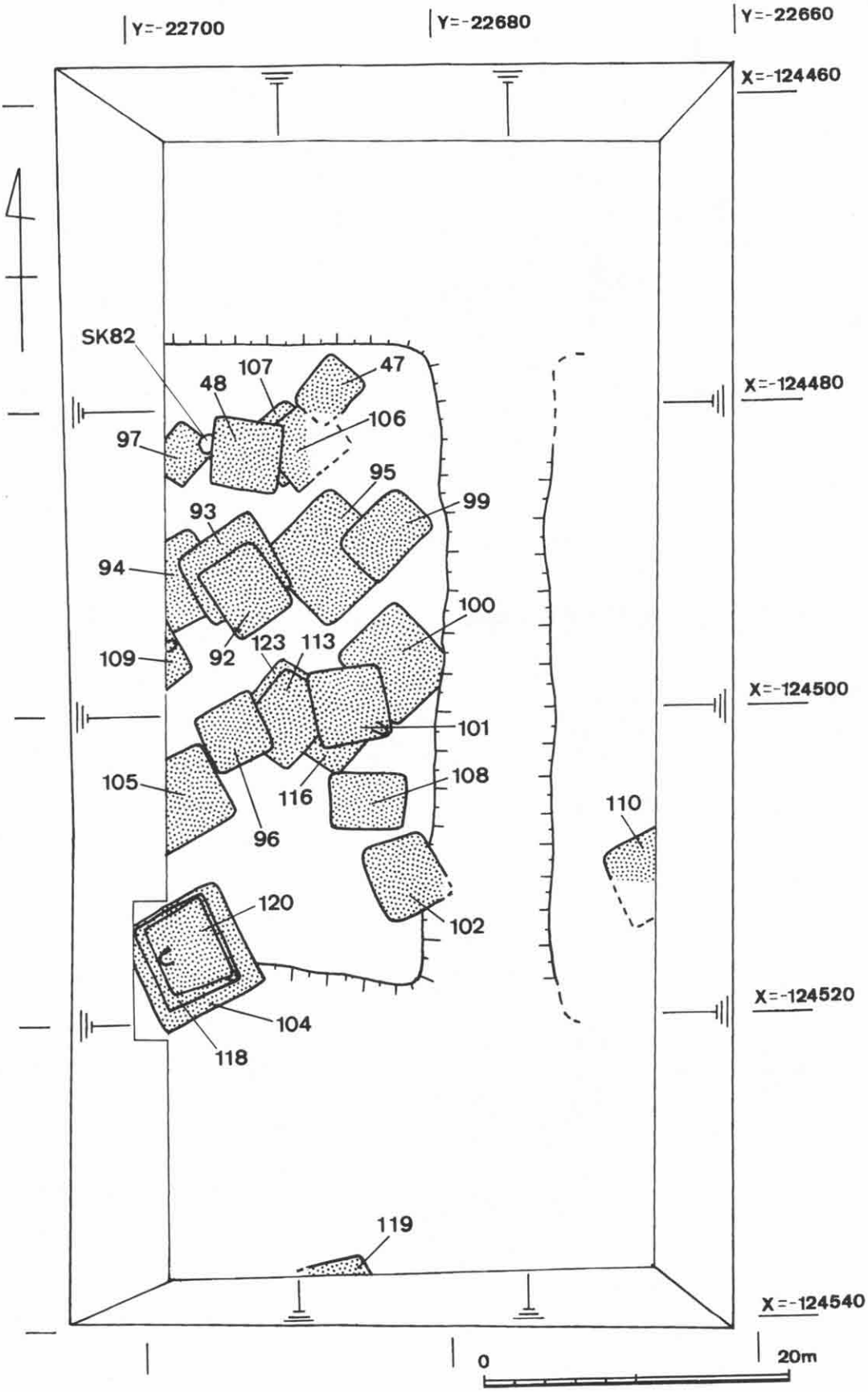


第2図　調査トレンチ配置図

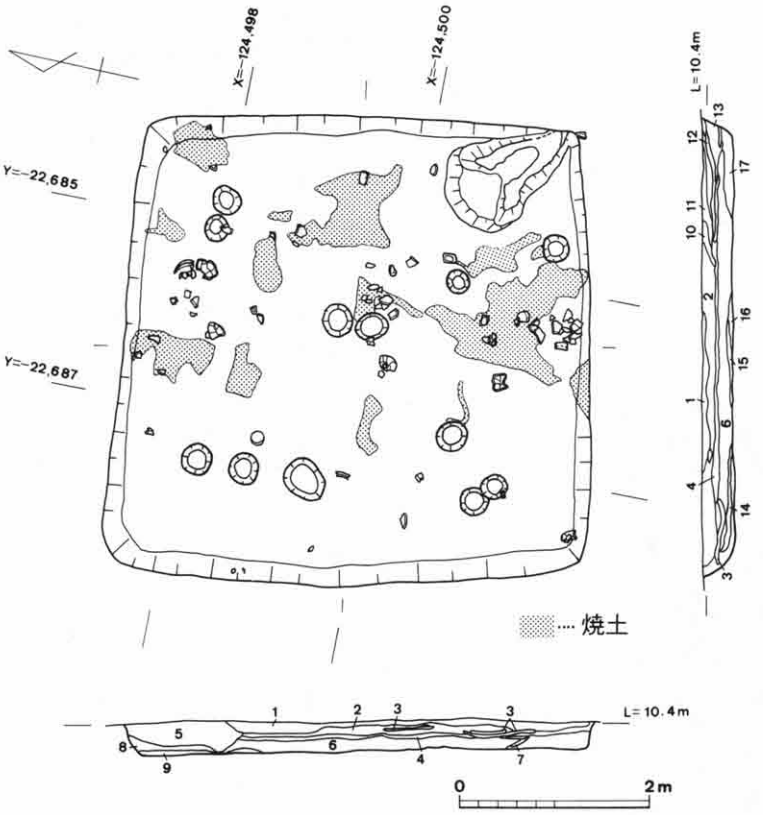
(3)古墳時代前期～中期の主な遺構

竪穴式住居跡ＳＨ92　竪穴式住居跡ＳＨ93・94の床面を切り込み、構築された方形の住居跡である。規模は約5.4m×4.5m、検出面から床面までの深さは、約30cmを測る。柱穴は、6か所で検出した。埋土上層では、中央付近を中心に、約3.0m×1.4mの楕円形状の大きな広がりをもつ炭化物層を検出した。層中には、土器片が多く含まれており、住居廃絶後に堆積したものと推定される。住居床面には貼床がみられる。貼床下層では、周壁に沿って馬蹄形状の掘り込みが認められた。埋土から出土した土器は、布留式甕、庄内式甕などが共伴し、時期は古墳時代前期前半と推定される。

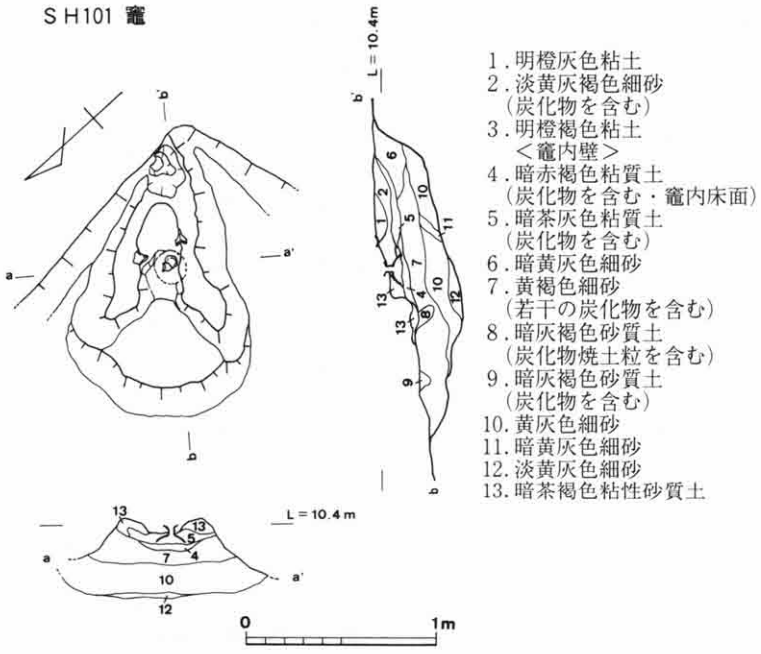
竪穴式住居跡ＳＨ104・118・120　調査区南西部で検出した方形の竪穴式住居跡群である。切り合い関係や出土した土器から、それぞれ時期差があり、徐々に床面を縮小して構築したこと



第3図　竪穴式住居跡群平面図



1.暗褐色砂質シルト
2.黄灰色細砂
3.暗赤褐色粘質土(焼土)
4.淡黄灰色細砂
5.暗褐色砂質土
6.暗灰色細砂質土
7.淡黄褐色砂質土
8.暗灰色細砂
9.暗青灰色砂質土
10.黄灰色細砂
(炭化物を含む)
11.黄灰色細砂質土
12.暗黄灰色砂質土
13.暗黄灰色細砂
14.黒灰褐色砂質土
(炭化物を含む)
15.暗赤褐色細砂質土
(焼土塊を含む)
16.暗茶灰褐色細砂質土
17.暗青灰色細砂質土



1.明橙灰色粘土
2.淡黄灰褐色細砂
(炭化物を含む)
3.明橙褐色粘土
<竈内壁>
4.暗赤褐色粘質土
(炭化物を含む・竈内床面)
5.暗茶灰色粘質土
(炭化物を含む)
6.暗黄灰色細砂
7.黄褐色細砂
(若干の炭化物を含む)
8.暗灰褐色砂質土
(炭化物焼土粒を含む)
9.暗灰褐色砂質土
(炭化物を含む)
10.黄灰色細砂
11.暗黄灰色細砂
12.淡黄灰色細砂
13.暗茶褐色粘性砂質土

第4図　竪穴式住居跡ＳＨ101実測図

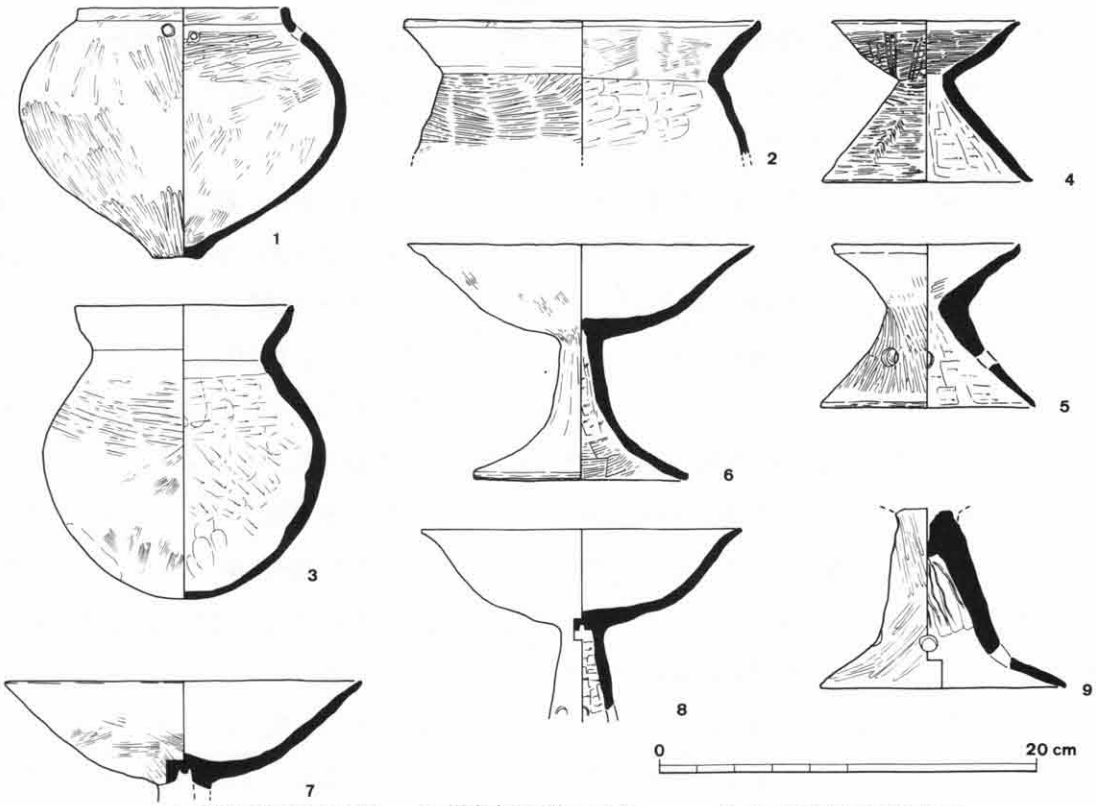
が判明した。ＳＨ104の規模は7.4m×7.0m・深さ25cmを測る。ＳＨ118の規模は約6.2m×5.3m・深さ35cmを測る。ＳＨ120の規模は約5.5m×4.7m・深さ55cmを測る。ＳＨ118は、床面南東部で周壁に沿って一部焼土が認められた。ＳＨ118の主柱穴は、住居床面のおおよそ対角線上の位置で、４か所で確認した。最も新しい時期のＳＨ120は、造り付けの竈を設ける住居跡である。主柱穴は４か所で検出し、床面では約65cm×35cmの土坑１基を検出した。土坑内からは砥石が出土した。竈は、住居西壁中央部に設けられている。燃焼部中央上面では甕が出土し、その下層から、脚部を打ち欠いた高杯口縁部が２個体重ねられ、反転させた状況で出土した。焚き口には、炭化物混じりの焼土層が広がる。煙道等の施設は特に認められなかった。住居床面から高杯・壺・甕など多くの土器が出土した。このうち布留式甕は、典型的な肥厚する口縁部をなすものである。共伴する壺は、肩部に一部タタキが施され、古い手法を残しているが(第６図３)、口縁部外面の強いナデや内面ヘラケズリの特徴などには、布留式

甕の影響がみられる。出土土器は、おおよそ布留式古～中段階に位置づけられるものであり、山城地域の導入期の竈をもつ住居である。今後、時期についてはさらに詳細な検討を行いたい。また、ＳＨ118の南東の床面でも、土器が一括して出土しているが、この中には、庄内式甕が含まれており、ＳＨ120の土器群とは明らかな時期差が認められる。

竪穴式住居跡ＳＨ101　調査区中央部で検出した方形の住居跡である。規模は、約5.0m×4.9m・深さ約30cmを測る。埋土上層では、炭化物混じりの焼土層を部分的に検出した。焼土層およびその周辺では、土器が集中的に出土した。これらの土器には完形の高杯が多く含まれており、住居の廃絶にかかわる祭祀的な行為が行われた可能性がある。また、柱穴は、対角線状に各２か所、計８か所以上の柱穴を確認しており、住居の建て替えが行われたものと推定される。住居南東コーナーでは、造り付けの竈を検出した。竈の残存状況は比較的良いが、煙道部はすでに削平されているようである。竈の中央部の断ち割りによって、壁体内壁が確認され、焚き口では２～３cmの薄い炭化物層が認められた。また、燃焼部の上層では土師器甕の口縁部が出土し、壁体崩落土直下から、支脚として利用されたとみられる高杯が反転された状態で出土した。住居の構築時期は、出土した土器から古墳時代前期末～中期初頭と推定される。

竪穴式住居跡ＳＨ47　調査区北部で検出した方形の住居跡である。規模は、約4.1m×3.3mで、平面形は長方形を呈する。検出面から床面までの深さは約20cmである。床面全面から、多量の焼土や炭化材が出土しており、焼失住居とみられる。炭化材は、住居床面の中心部から放射状にみられ、屋根材と推定されるものが多い。柱穴は９か所で検出した。時期は、出土した土器から、古墳時代中期前半と推定される。

第５図　竪穴式住居跡ＳＨ101竈(北西から)



1．竪穴式住居跡ＳＨ94　2．竪穴式住居跡ＳＨ105　3・9．竪穴式住居跡ＳＨ120
4．竪穴式住居跡ＳＨ92　5．土坑ＳＫ98　6・7竪穴式住居跡ＳＨ108　8．竪穴式住居跡ＳＨ101

第６図　出土遺物実測図

３．まとめ

今回の調査成果のうち、特に注目されるのは、山城地域における最古段階の竈付き住居跡を検出したことであろう。佐山遺跡Ａ－１地区の調査では、古墳時代前期から中期にいたる４基の竪穴式住居跡から、それぞれ造り付け竈を検出した。近畿地方の最古の竈例としては、古墳時代前期(庄内式期末)とされる大阪府の四ツ池遺跡ＳＡ01などが知られるが[注1]、近年、近畿地方でも４世紀に位置づけられる竈が確認されるようになってきている[注2]。本遺跡例は、淀川水系においても、新たな資料を提供することになった。検出した住居跡群の時期は、古墳時代前期初頭から中期まで、比較的時間幅をもって構築されたもので、竈の導入過程を知るうえで貴重な資料となろう。今後、竈の構造の変遷や詳細な時期の検討を併せて進めてゆきたい。

(たけはら・かずひこ＝調査第２課調査第３係主任調査員)
(ののぐち・ようこ＝調査第２課調査第３係調査員)

注１　樋口吉文・土山健史『四ツ池遺跡』(堺市文化財調査報告第16集　堺市教育委員会)　1984

注２　いわゆる類竈のなかにも、再検討を要するものがあるとされ、列島内での竈の出現時期については、弥生時代後期後半～古墳時代初頭にまで遡る可能性が指摘されている。
合田幸美「竈の出現と展開」(『古墳時代の竈を考える』第32回埋蔵文化財研究集会資料　第三分冊　埋蔵文化財研究会)　1992

織（おり）部（べ）雑記

－京都府庁出土の織部向付を中心に－

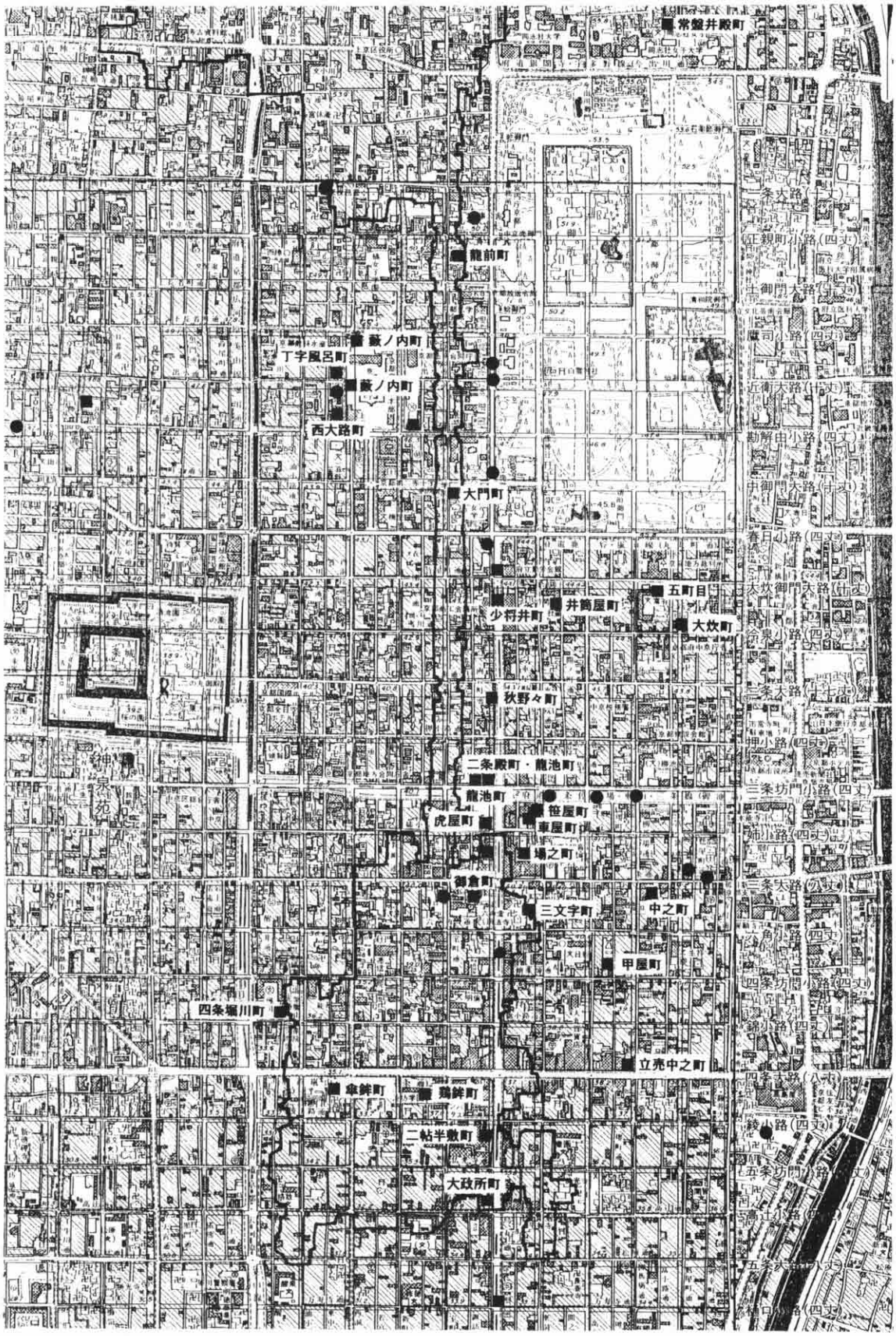
小山　雅人

1．考古遺物としての桃山陶磁（第１図）

平安京の左京、現在の京都市上京区・中京区・下京区の発掘調査では、平安時代の遺構を検出することはかなり難しい。その代わり、中世から近世の良好な資料が得られることが多い。とりわけ、桃山時代の遺構・遺物は、信長・秀吉・家康という英雄の時代、美濃や唐津など茶陶の黄金時代として一般の関心もきわめて高い。「桃山時代」という名称は、曖昧で、人によって指す時期が違っていたりする。「安土」を付して「安土桃山時代」とすれば、教科書的な政治史の時代区分になり、足利幕府の滅亡から徳川幕府の開府までの30年間（1573～1603）を指す。美術史では、これよりもはるかに長く、天文年間を早期として、寛永年間の前半くらいまでのおよそ１世紀間（1532～1630頃）が「桃山様式」の時代とされているようである。考古学ではどうか。これについては後述するが、大坂城の築城（1583）から元和年間（1615～1624）までの約40年間をとりあえず「桃山時代」としておきたい。それ以前、信長の時代は中世末期、寛永以降、三代将軍家光の時代は、国産磁器伊万里焼の時代、徳川幕府の確立期と捉え、慶長年間を盛期とする「桃山時代」を近世初頭と見る。

この時期、冒頭に触れたように、京都の中心部からは、多量の桃山陶磁が出土する。同様の傾向は大坂城とその城下、堺の町、清洲城下、そしていくつかの近世初頭の城下町にも見られる。[注1] しかし、その他の大多数の地方では、桃山陶磁はほとんど出土しない。江戸でも慶長以前の美濃焼はかなり限られるようである。つまり、都市と地方の差がきわめて顕著なのもこの時代の特徴である。本稿で紹介しようとする資料３点も、全国や京都府全体から見るときわめて珍しい資料であるが、京都市内の近世初頭の遺跡ではありふれたものである。京都府教育委員会や当調査研究センターが京都市内を調査することは多くはなかったが、特に京都府庁周辺では比較的広い面積を何度か調査しているので、出土した桃山陶磁の紹介を通して、上京区のこの一角を一瞥してみたい。

京都御苑の西、烏丸通に面して２か所の調査地点がある。内膳町府民ホール地点（旧知事公舎）［烏丸通上長者町上る龍前町］には灰志野の銅鑼鉢がある。皿などの日常雑器も含めて志野製品が多く、織部は皆無に近い。中国製の青花盤がある。金箔瓦が出土した。[注2] １町南の内膳町平安会館地点（旧平安寮）［烏丸通中立売上る龍前町］には、慶長九年銘の木簡を伴って中国製の五彩盤・志野水注・青織部振出を含む一括資料（ＳＫ42）のほか、黄瀬戸向付（銅鑼鉢）・志野角向付・黒織部沓茶碗・青織部平向付などの好資料がある。金箔瓦も出土している。[注3]



第１図　京都の主要織部(■)とその他の桃山陶磁(●)の出土地点

府警本部の新町通りを隔てた110番指令センター［新町通下長者町下る両御霊町］では、黄瀬戸や唐津の大皿(大盤)や志野の向付、唐津の沓茶碗のほか、珍しい瀬戸黒茶碗(破片)がある。織部は小片が多い。非常に状態のよい金箔瓦が大量に出土した。(注4)

京都府庁敷地内［下立売通新町西入藪之内町］では2度の調査が行われた。福利厚生棟の調査では、朝鮮王朝白磁碗と同じく彫三島碗が特筆される。何度か特別展に出品のため貸し出されている。また、織部黒沓茶碗や鳴海織部筒向付片もこの近辺では珍しい。(注5)西洞院大路を南に下がった府庁1号館地点は近衛西洞院辻に当たるが、ほぼ完形の華南三彩盤がよく知られている。後述する青織部平向付は、いずれもこの地点の出土である。他に、黄瀬戸の皿や総織部の水滴などがある。金箔瓦、特に桐文の飾り瓦が多数出土した。(注6)

西隣の茶屋四郎次郎屋敷［小川通出水上る丁子風呂町］の成果はよく知られているが、黄瀬戸・志野・織部・唐津の茶碗が多く、総織部や白天目の天目茶碗も出土した。(注7)府庁西別館地点［西洞院通下立売上る西大路町］は、上の茶屋屋敷の南隣の地点である。唐津沓茶碗・御深井皿・朝鮮王朝白磁皿などが特筆される。桃山時代の末期から次の時代にかけての資料が多い。(注8)

以上、京都府庁周辺は、室町時代の上京と下京の間に位置し、西方に聚楽第が築かれるとその城下の大名屋敷地区となった。夥しい金箔瓦の出土がそれを物語る。聚楽第の破却後は、茶屋四郎次郎に代表されるような豪商や新興勢力の屋敷地になったようである。例えば、内膳町平安会館地点は、慶長時代には糸割符商人松屋三郎右衛門の屋敷であった。

地下鉄烏丸線関係調査以降、(財)京都市埋蔵文化財研究所の成果によると、京都の桃山陶磁の出土は、北は北小路(今出川通)から南は五条通、東西は寺町通から堀川通に集中する。特に中京区に多いようで、ここでも豪商の屋敷から桃山の茶陶が出土している例として、後藤庄三郎の屋敷であった場之町遺跡が挙げられる。(注9)中京で特筆すべきは、三条通りの陶器商店の裏庭出土資料で、中之町・下白山町・弁慶石町などの例がある。とりわけ、中之町の資料は整理箱92箱2500点に及び、特に織部が多い。(注10)四条以南の下京区ではややまばらになるが、当調査研究センターの調査で、桃山時代の好資料が出土した地点に五条署地点［下京区烏丸通高辻上る大政所町］がある。志野向付・黒織部沓茶碗・伊賀焼碗などの他に、珍しい備前の向付が出土した。(注11)上・中・下京区以外の京都市周辺で、桃山時代の茶陶の出土は、伏見城の城下町［伏見区京町南七丁目］(注12)(黒楽茶碗・黄瀬戸大鉢)のいくつかの地点と宇治市街遺跡(注13)(黒織部沓茶碗)が報告されている。

2．織部の種類(第2図)

織部(織部焼)は、織部黒、黒織部、総織部、志野織部、青織部、鳴海織部、赤織部の7種類に分けられる。釉薬や胎土など、見かけの色を基本とした呼称である。これ以外の名称等もあるが、現在は一般的ではない。以下に各種類ごとに、発掘調査での出土器種を挙げる。

①織部黒には、殆ど沓茶碗しかない。瀬戸黒に織部風の変形が加わっているが、黒一色のものである。出土例は多くない。上京の府庁福利厚生棟で出土している(第2図1)。

②黒織部は、連房式登窯の製品で、黒い釉を全面には施さず、窓と呼ばれる空白部を残し、文

様を施したり(同３)、黒釉部分を文様に掻き落としたり(同２)する。器形としては、歪みをもつ沓茶碗にほぼ限られるが、わずかに鉢もある。伝世品には茶入などもある。

③志野織部は、連房式登窯で焼いた志野であって、厚く白い長石釉越しに鉄絵がぼんやり浮かび上がる志野に対して、志野織部はよく焼けて透明になった長石釉の下の鉄絵がくっきりと見える。筒向付(同５)・平向付(同６)・鉢・丸皿のほか、灯明具・香合・香炉・注子があり、丸茶碗や沓茶碗もまれに見られる。茶陶とは別に、日常雑器の小皿類も多い。

④総織部は、織部釉とも言う緑の釉を全面に施した器である。天目茶碗や丸茶碗、向付類にも見られるが、皿や大皿が多く、緑釉を掻き落として文様を施す。灯明具もある。

⑤青織部は、普通織部というとこれを指す。伝世品と同様、発掘調査でも大多数がこの青織部である。丸茶碗などもあるがわずかで、専ら懐石用の食器が作られている。筒向付、平向付(同７～11)、四方鉢(第４図)、手鉢、大皿／盤などがあり、他に灯明具、香合、茶入蓋、水注、徳利、水滴なども見られる。大量生産の小皿類も多い。

⑥赤織部は、鉄分の多い赤土を用いた器で、白泥と鬼板(鉄絵)で文様を描く。向付や鉢などに限られるようであるが、秋野々町から出土した沓茶碗はきわめて珍しい(第２図４)。

⑦鳴海織部は、白土と赤土を継いだ胎土で成形し、白土部分に緑釉を掛け、赤土部分は赤織部と同様に文様を施す。いわば、青織部と赤織部の合成で、極めて華麗な焼き物である。筒向付・平向付(同12)や鉢類、特に把手のついた手付向付・手鉢など高級品が目立つ。沓茶碗は、青織部ではほとんどないが、伝世品の鳴海織部にはいくつかの例がある(注22参照)。

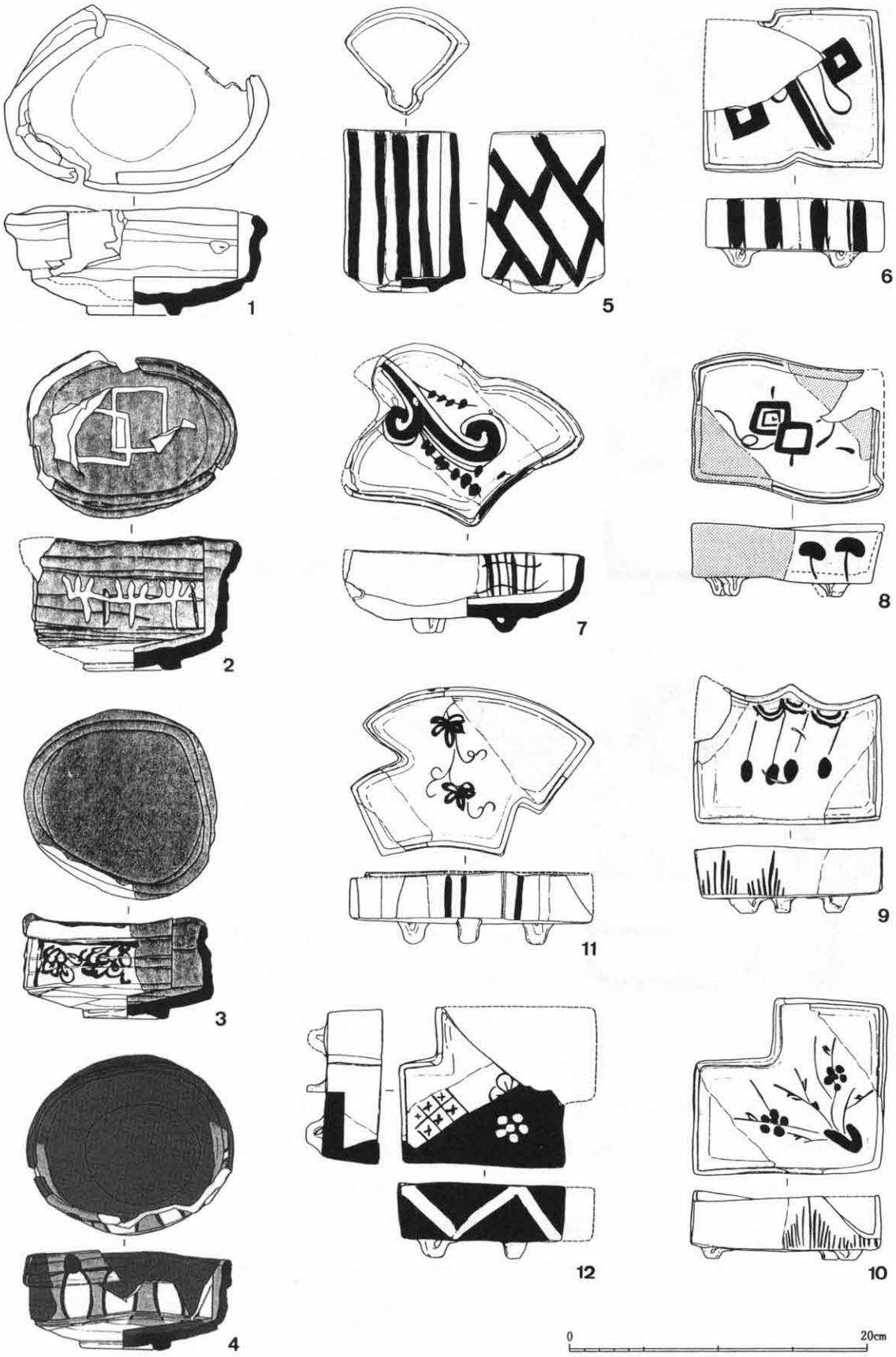
⑧弥七田織部は、織部末期の窯の名称から来ているが、これは様式名というべきである。

織部の製品を器種から見ると、向付が織部製品の６割を占めている。京都や大阪での発掘調査の出土品の場合、この比率は更に高くなる。茶碗がこれに次ぐ。発掘資料では高級食器の手鉢はごく稀、蓋物などは皆無に近いであろう。

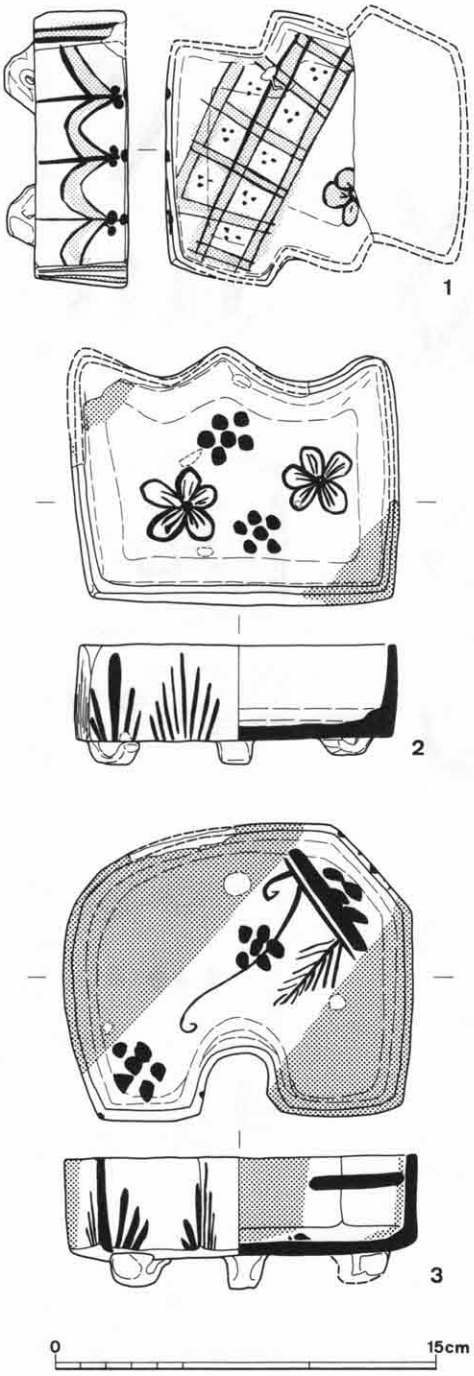
ここで、出土する織部の大半を占める平向付の分類について見ておきたい。製作手法から、ロクロ成形後にヘラや手で曲げ込み、外開きなどの変形をするもの(Ａ手法)、ロクロでひいた丸形のものを型打ちするもの(Ｂ手法)、粘土板を型打ち成形するタタラづくり(Ｃ手法)の３種がある。(注14)「Ａ～Ｃ手法」は仮の用語であるが、出土品は圧倒的にＣ手法が多い。一般的にＡ手法の作品は志野の向付と形態・技法・絵付けが似ているものが見られるのに対し、Ｃ手法は、形や文様など織部独自の世界をなしている。Ａ手法が古く、Ｃ手法が新しいように見える。

３．織部の向付３例(第３図)

以下に紹介する３点の資料は、いずれも京都府庁１号館の建設に先立つ調査での出土遺物であるが、攪乱や比較的重要度の低い遺構から出土したため、概報(注15)では割愛されていたものである。最初に断っておくが、以下の記述で「手許の資料」と表現したのは、陶磁関係書・資料館等の収蔵品目録・展覧会図録・発掘調査報告書などから作成した織部向付のリストで、形態・文様ともに明確な完形品や準完形品にほぼ限っている。従って、伝世品・発掘品とも、実数ははるかに増



第２図　京都出土の織部(1/4)



第３図　京都府庁出土の織部(1/3)

えるはずである。しかし、類例や形態と文様の組み合わせ等の傾向を見る目安として、あえて「○例ある」というような表現をした。なお、リストの資料の内、平向付は308点である。

①志野織部格子に梅花散し文八つ橋形向付(第３図１)：攪乱37出土(Ｃ手法)。

小川などにかかる折れ折れの板橋の形に似ているので、その名前を取って「八つ橋形」とした。この形は、手許の資料では７例ある。本例を含めて４例が志野織部の製品であり、３点までが同文で、３つの点を配した二重格子と「梅花散し」の組み合わせである。緑釉の製品(青織部)は３例あり、２例が「吊し柿に梅花散し」、１例が「双丸の二重線繋ぎ」を描いている。

向付の形態・施釉・文様に見られるこのような共通性は、黒織部の沓茶碗や鉢などには、ほとんど見られないもので、向付、特にＣ手法の型造りの向付が大量生産品とは言えないが、かなりまとめて作られていたことを物語る。形も文様も無限ではない。

②青織部梅花散し文山波形向付(第３図２)：ＳＤ96出土(Ｃ手法)。

形態は、長方形の長い１辺に半円形の抉り込みを二つ入れた「山」字状のもので、仮に山波形と呼ぶ。この形は織部の平向付で最も多く、手許の資料では、18例を数える。元屋敷窯の資料にもあり、「橋と飛鳥」、「梅が枝」などの文様が描かれている。京都や大阪の発掘資料７点の文様は、本例と同じ「梅花散し」で、わずかに１例「連弧に吊し柿」が京都・三文字町出土資料に見られる(第２図９)。18点中、「梅花散し」が10例、「梅が枝」が４例で、「山波」形と「梅」文には相関関係があるようである。

なお、この形に次いで多いのは片袖形(「Ｌ」字形、あるいは方形の１隅が蹴込む形、誰が袖形とも呼ばれる)で、同じく12例を確認した。鳴海織部の２例には「幾何学文」、鼠織部の１例には「縞と宝文」が施されるが、「梅が枝」(第２図10)が最も多く、８例あり、京都(３例)・大阪(１例)・堺(１例)の発掘で出土したものが目立つ。大阪の大手前４丁目出土例には、「棒に丸繋ぎ」が描かれており、片袖の「Ｌ」字形のプロポーションも他の例とはやや異なる。

③青織部梅花散し松唐草文誰が袖形向付(第３図３)：ＳＫ161出土(Ｃ手法)。

長方形の底辺中央を「U」字形に抉って「かるた箱」形にし、さらに上辺の左右を隅切りと円弧にした形である。「獅子頭」形とも呼ばれるが、香袋の一種を文様化した「誰が袖」形としておく。文様は「松唐草文」である。同形態の例は手元の資料で他に4例あり、3例までが「松唐草文」である。本例には「梅花散し」が加わっている。また、大阪道修町1丁目の資料(注16)には、一応「片袖」形ではあるが、「誰が袖」を表現したと思われる資料があり、これも「松唐草文」を描いている。「松唐草」が「誰が袖」形の専用であったように思われる。

4．織部の年代について

冒頭で触れたように、「桃山時代」の定義は難しい。ここでは、発掘資料を扱う考古学の立場から、いわゆる「桃山陶磁」の時代として、瀬戸黒の出現から織部の衰退まで、美濃大窯Ⅲ期の終わり頃から連房式登窯Ⅰ期の終わりまでとしておくのが便利であろう。何百箱という遺物を見て行くのに、黄瀬戸や志野、織部、また同時代の唐津などは、きわめて目につき易い。美濃焼の編年は、当初、大窯の時期を16世紀の百年とし、大窯Ⅰ～Ⅴを5等分するというような荒っぽいものであったが、戦国時代の山城を主とした発掘調査資料などと突き合わせながら、修正されて来た。とりわけ、大阪城の調査成果は、桃山陶磁の編年に革命をもたらしたが、京都などでの従来の編年との調整に1990年代のほぼ10年を要した。現在、おおむねこの大阪城編年(注17)が主流になった観があるが、美術史などの分野では、まだ旧来の編年観で語られることも少なくない。美術史に限ったことではないが、編年観の急激な変化は、やはり人を躊躇させてしまう。例えば、志野の出現時期は、信長生前の1580年頃から秀吉が関白になった1585年に下がり、さらに大阪城編年では1597年か98年頃となって、秀吉は志野をほとんど見なかったことになってしまうのである。

筆者は、この大阪城編年に基本的に従い、また、1573年頃の旧二条城に関係すると見られていた資料を、1595年の聚楽第破却の時の資料とする新しい京都の編年(注18)も大体認めたい。したがって、「桃山陶磁」の時代とは、大阪城の編年でいう「豊臣前期」から「徳川初期Ⅰ」に相当し、政治史年表で言えば、本能寺の変の翌年の大阪城築城開始の1583年から徳川家光が三代将軍になる1623年まで、天正後半・文禄・慶長・元和の40年間となる。

革命には細部で行き過ぎも付き物で、大阪城編年も例外ではない。その大筋、特に志野が1597年頃に出現することを定点として認めつつ、本稿の主題である織部について、提出されているある説にいささか再検討を提唱したい。

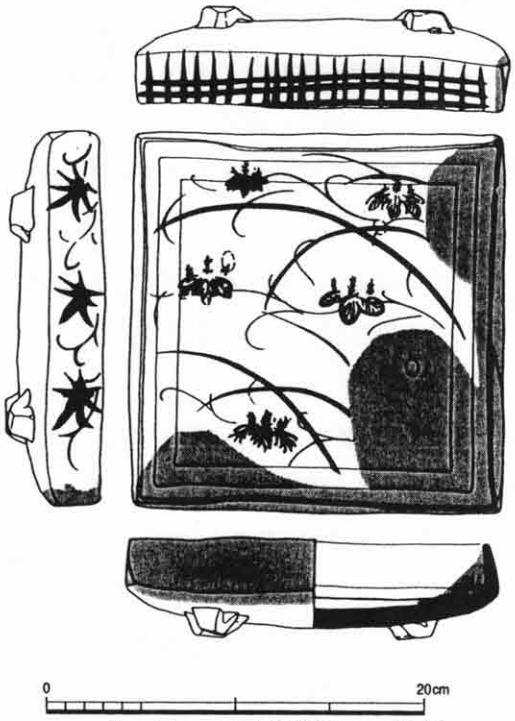
大阪城編年の豊臣後期(秀頼の時代、志野や唐津の出現以降)の細分として、緑釉の織部(青織部)が入らない時期というものが設定されている。伊藤　純氏は、1993年の論考で「慶長拾七(1612)年」銘の総織部獅子香炉の存在から、青織部の出現を1610年頃に考えられている。また、織部と同様に鼠志野も、大坂の陣の近くか、その焼土層からしか出土しないので、そして、志野茶碗と黒織部沓茶碗との差を単に時期差として、「黒織部は1615年に自刃した古田織部の形見のごとく、この世に現れた茶碗ということになる」という見方をされている(注19)。

古田織部正重然(佐助、景安、1544？～1615)は、信長・秀吉・家康に仕えた武将、茶人として、

千利休の後継者で、秀吉晩年の御咄衆、将軍秀忠の師匠である。大坂落城後、豊臣方に通じていたと疑われ、切腹、資財は徳川家に没収された。(注20) 巷間には古田織部を志野や織部の創造者、指導者として、日本文化史上の偉人とする考え方もある。(注21) 古田織部の花押を(漆書きではなく)鉄絵で記した茶碗が2点存在する。(注22) 鬼板の花押の上に長石釉を施しているので、古田織部自身が美濃の窯場に出向いたはずである。ここから千利休と長次郎の楽焼のような関係を、古田織部と織部焼との間にも想定できようが、美術史家は、桃山陶磁に見られる美術史上の革命的な思想を、限られた人間に帰せようとはしないようである。(注23)

一方、生産地での窯の発掘調査の成果によれば、大窯Ⅴ期の後半に鼠志野や織部黒沓茶碗は完成している。最初の連房式登窯、元屋敷窯の開窯は、「慶長十(1605)年」銘の志野扇面向付を登窯への移行直前と見て、同年頃とされている。釉薬・意匠・製作手法などから見て、大窯Ⅴ期(志野の時代)から連房式登窯Ⅰ期(織部の時代)へは、極めて自然に移行している。(注24)

大阪の高麗橋1丁目には豊臣後期に魚市場があり、元和8(1622)年まで存続していたという。この地点の発掘調査の出土遺物には、織部の後半から末期に特徴的な志野織部や青織部の小皿があり、元和七年銘の木簡と共伴している。(注25) もし大阪城編年によるなら、織部の最盛期は慶長15(1610)以降の5年か10年に過ぎなかったことになる。黒織部の茶碗は、伝世品だけでなく、発掘調査での出土品も多く、初期から最盛期、末期へと変化がたどれるが、これだけの変遷をほんの数年の中に押し込めなければならなくなる。これに対して、生産地の編年によって織部様式(登窯Ⅰ期)の最盛期を慶長20(1615)年の大坂の陣以前の10年間とし、織部様式の後半から末を元和の10年間に充てれば、無理なく理解できるであろう。元和の10年間、大阪と同様、京都でも、織部小皿などの美濃焼は減少し、唐津焼がますます多くなる。桃山陶磁の黄昏である。



第4図　四条堀川町出土の織部

京都の四条堀川町の京都市立堀川高等学校は、古田織部の旧邸で、織部の死後、藤堂高虎に与えられ、藤堂家の京都藩邸となった故地である。1997年に発掘調査が行われ、古田織部邸の時期の溝から桃山陶磁を含む一括資料が出土した。土師器・瓦器類のほか、芙蓉手の中国青花、朝鮮王朝の白磁、ヴェトナム産の壺片、丹波・備前・信楽の鉢・擂鉢類、唐津の碗・皿・向付類、美濃の鉄釉や灰釉の碗皿類と青織部の四方鉢などがある。(注26) 幕府によって目ぼしいものが接収された後の燃えないゴミであるが、美濃焼よりも唐津焼を好んだといわれる古田織部らしく、唐津焼が目立つ。青織部の鉢(第4図)は、織部邸の織部焼として話題になったものである。向付よりも一回り大きい四方鉢の出土は比較的珍しいが、中之町や五町目に

例がある。京都市考古資料館の原山充志氏にご教示いただいたが、作風が弥七田織部にやや近いように思われるとのことである。確かに、弥七田までは行かないにしても、文様のあしらい方、緑釉の掛け方など、全体に華奢な感じは織部後半期にさしかかったような印象である。少なくとも、この青織部は出現直後のものとは思えない。この大坂の陣直後の京都の資料を先程の大阪城か生産地かという編年の問題に持ち込むと、当然生産地側に有利な証拠物件になる。

慶長時代(1596～1615)の20年は、茶の名人から天下一の宗匠へと上っていった古田織部の活躍期とも一致する。ことさら古田織部と織部焼を結び付けるわけではないが、青織部・鼠志野・黒織部沓茶碗を慶長15(1610)年以降にまで下げるという説は、美術史のみならず、出土資料ともやはり不都合を来すのである。

(こやま・まさと＝調査第1課長資料係長事務取扱)

注1 ①『桃山の茶陶』 根津美術館 1989；②『美濃桃山陶の系譜』 土岐市美濃陶磁歴史館 1995；
③『洛中桃山のやきもの』 土岐市美濃陶磁歴史館 1997 [以上、京都関係]
④『桃山の華』 土岐市美濃陶磁歴史館 1993；⑤『続桃山の華』 土岐市美濃陶磁歴史館 1994
⑥『豊臣期のやきもの』 土岐市美濃陶磁歴史館 2000 [以上、大坂関係]
⑦『堺衆のやきもの』 土岐市美濃陶磁歴史館 1996 [堺関係]
⑧『城下町のやきもの』 土岐市美濃陶磁歴史館 1998 [清洲・名古屋関係]
⑨『織部御深井古染付』 土岐市美濃陶磁歴史館 1999 [江戸関係]

注2 伊野近富ほか「平安京左京北辺三坊五町発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第27冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1988、75～139頁

注3 伊野近富ほか「平安京跡(左京内膳町)昭和54年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』(1980-3) 京都府教育委員会) 1980、139～389頁

注4 森島康雄「平安京跡・旧二条城跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第59冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1994、51～96頁

注5 引原茂治「平安京左京一条三坊二町・西洞院大路発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第45冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1991、77～98頁

注6 伊野近富「平安京(左京近衛・西洞院辻)発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第33冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989、31～74頁

注7 平尾政幸・本弥八郎「平安京左京一条二坊」(『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所) 1987、9～12頁

注8 小池 寛「平安京跡左京一条二坊十四町(左獄・囚獄司)」(『京都府遺跡調査概報』第63冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989、特に43～72頁

注9 辻 裕司・鈴木廣司「平安京左京三条三坊」『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所) 1995、23～28頁、および注1③文献、20・31頁参照

注10 ①久世康博「平安京左京四条四坊」(『京都市内遺跡試掘立合調査概要』平成元年度 京都市文化観光局) 1990、4～10頁
②『特別展示 洛中桃山陶器の世界－三条界隈出土－』(京都市考古資料館) 1998

③『特別展示 続・洛中桃山陶器の世界－三条界隈出土－』　京都市考古資料館　1999

注11　竹下士郎・石井清司「平安京跡左京五条三坊十一町発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第80冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)　1998、43～68頁

注12　小森俊寛・上村憲章「伏見城跡２」(『昭和63年度京都市埋蔵文化財調査概要』　(財)京都市埋蔵文化財研究所)　1989、129～136頁および注１②文献の資料番号33・41・57参照

注13　杉本　宏「宇治市街遺跡(壱番67)発掘調査概要」(『宇治市埋蔵文化財発掘調査概報』第18集　宇治市教育委員会)　1992、14～20頁

注14　加藤土師萌『織部』(陶器全集第五巻)　1959、12頁および注１②～⑦文献の林　順一・加藤真司両氏の資料解説の各所に見られる。④文献の資料番号30参照

注15　注６文献。これらの資料の公表を快諾され、教示もいただいた当調査研究センターの伊野近富に感謝したい。

注16　注１④文献、資料番号35

注17　最近のものとして、森　毅「豊臣期大坂の美濃桃山陶」、注１⑥文献、36～44頁を挙げておく。10年間の研究史については、44頁の参考文献を参照されたい。

注18　森島康雄「中世末から近世初頭の陶磁器」(『考古学ジャーナル』442)　1999、15～18頁

注19　伊藤　純「いわゆる桃山陶磁についての粗描」(『中近世土器の基礎研究』Ｘ)　1993、187～201頁、引用は198頁。

注20　①高柳光壽・松平年一『戦国人名辞典』増訂版　吉川弘文館　1973、210頁；②桑田忠親『古田織部の茶道』(講談社学術文庫932　講談社)　1990

注21　①勅使河原宏『古田織部－桃山の茶碗に前衛を見た－』　日本放送出版協会　1992
②久野　治『改訂　古田織部の世界』　鳥影社　2000；③久野　治『ORIBE－古田織部のすべて－』鳥影社　1997

注22　黒織部沓茶碗(金沢の旧家伝来、林屋晴三編『日本の陶磁４　織部』　中央公論社、図版51・52、84頁)と、大和文華館蔵赤織部［鳴海織部］縞紋沓茶碗(小田榮一『和物茶碗』　河原書店、78・80頁)

注23　①竹内順一・渡辺節夫『千利休とやきもの革命－桃山文化の大爆発－』　河出書房新社　1998、の竹内氏の立場(196頁)；②矢部良明『古田織部～桃山文化を演出する～』(角川叢書７、角川書店)1999で、著者は織部はファッション・クリエーターではなくファッション・コーディネーターであったという論を展開している。

注24　①林　順一「美濃桃山陶の成立と展開」、注１⑥文献、45～49頁
②林　順一「美濃窯における最近の発掘成果」(『目の眼』３月号、No.282)　2000、44～45頁

注25　松尾信裕「大坂出土の桃山陶磁」、注１④文献、36頁・挿図10

注26　①山本雅和・上村和直「平安京左京四条二坊」(『平成９年度京都市埋蔵文化財調査概要』、(財)京都市埋蔵文化財研究所)　1999、42～50頁；②『「古織様」の京屋敷』　京都市考古資料館速報展　1999

出典(第２図)：いずれも京都市内出土の資料である。
１(薮ノ内町)は注５文献85頁・58図、２(龍前町)は注３文献226頁・97図749、その他は注１①文献133～138頁による。２(少将井町)、３(甲屋町)、４(秋野々町)、５(大炊町)、６(笹屋町)、７(御倉町)、９(三文字町)、10(大門町)、11(二帖半敷町)、12(立売中之町)

平成12年度発掘調査略報

1.沖田遺跡

所 在 地　中郡大宮町大字森本小字井内口

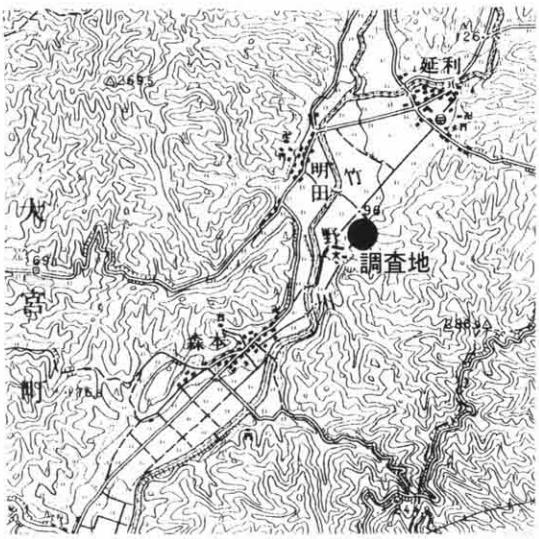
調査期間　平成12年５月９日～７月28日

調査面積　約1,200m²

はじめに　沖田遺跡は、弥栄町と大宮町の境界に源を発する竹野川が大宮町延利集落の南方で久住川と合流し、形成したやや広い平地部分の竹野川左岸の丘陵裾付近に所在する。沖田遺跡は、弥生時代の散布地として周知の埋蔵文化財包蔵地で、磨製石斧が出土したことでも知られている。周辺には、延利遺跡・曲り遺跡・松山遺跡・マンジョウ寺遺跡などが、丘陵上には笠町古墳群・宮ノ奥古墳群・丸谷古墳群・大谷口古墳群・森本大谷古墳群・星ノ内古墳群のほか、延利城跡・明田城跡・入谷城跡・森本城跡・森本大谷城跡などの中世山城がある。

この調査は、府営中山間地域総合整備事業「小町の里地区」のほ場整備事業に先立ち、京都府丹後土地改良事業所の依頼を受けて実施した。一昨年に京都府教育委員会による試掘調査が行われ、溝跡や柱穴跡が検出されるとともに、古墳時代から中世の土器や木製品などが出土している。今回の調査は、試掘調査で遺構や遺物が多く確認された場所を対象地とした。

調査の概要　調査地対象地は、竹野川に流れ込む井内川による開析谷に向かって北東から南西方向にゆるやかに傾斜する地形である。北東部から南東部(丘陵側)では耕作土の下に灰褐色土・暗褐色土(古墳～奈良時代の遺物包含層)が堆積し、北西部は耕地造成で遺物包含層が削平され、暗灰色・濁灰褐色砂質土の上面で溝や柱穴などを検出した。東部では暗褐色土の上面で砂礫の溝(ＳＤ01)や柱穴を検出した(上層遺構と呼ぶ)。中央西側は後世の攪乱があり、南部では暗褐色～暗灰褐色の植物遺体を含む砂質土が東方から西方に向かって堆積している。この堆積層には古墳時代～中世の遺物を包含し、動物を墨で描いた土師器皿や須恵器・輸入陶器・木製品などが出土した。この堆積層をえぐり込んで砂礫堆積の中世溝(ＳＤ02・03)を検出した。その下には暗灰色砂質土



第１図　調査地位置図(1/50,000)

層(砂・砂質・シルトの互層)が堆積し、暗灰色砂質土層をえぐり込んだ砂礫の溝(ＳＤ04ほか)や多数の柱穴・土坑(ＳＫ01)、竪穴式住居跡(ＳＨ01・02)などを検出した。以下に主な遺構について記述する。

溝ＳＤ01　幅0.3～１mの砂礫の溝で中世(13～14世紀)の土師器皿や木製品などが出土した。溝は東方から西方に傾斜している。

溝ＳＤ02　ＳＤ01の途中から直角に分岐して延びる砂礫の溝で、多量の木製品や土師器皿などが出土した。最大幅約２mを測る。

溝ＳＤ03　ＳＤ01から直角に曲がる砂礫の溝で、最大幅約1.5mを測る。多量の木製品や土師器皿などが出土した。ＳＤ01～03は中世の区画溝の可能性が高い。

溝ＳＤ04　蛇行気味にのびる幅１m前後の砂礫の溝で、弥生土器が流入していた。

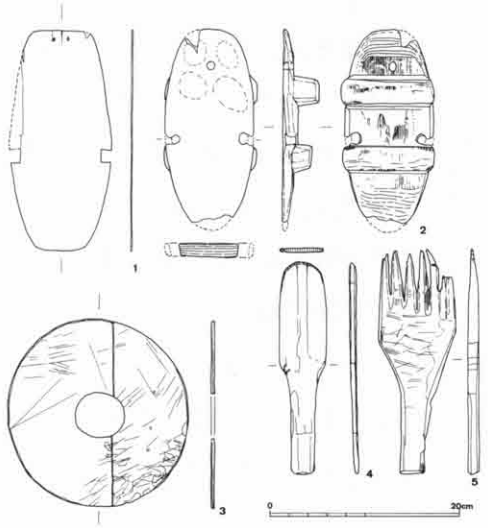
土坑ＳＫ01　中世遺物堆積層の下で検出した幅1.3m・長さ１m以上の土坑で、埋土(黒灰色粘質土)から、網代と編み籠の残欠が出土した。

竪穴式住居跡ＳＨ01　4.0m×3.8mの方形を呈する住居跡で周壁溝はない。古墳時代後期の土師器高杯が出土した。

竪穴式住居跡ＳＨ02　5.8m×3.0m以上の住居跡で、周壁溝がめぐる。古墳時代後期の土器が出土した。

これら以外に古墳時代後期～飛鳥時代の溝などがある。中央部分の後世の攪乱や、中世以降の水路と判断できる溝周辺から縄文土器が出土している。

まとめ　今回の調査では、縄文時代から中世にいたる大量の遺物が出土し、当地が縄文時代以降の居住地として利用されていたことが判明した。



第２図　沖田遺跡出土木製品実測図

また、出土遺物のうち、溝ＳＤ02・03と包含層から出土した木製品にさまざまなものがある。正面に鋭利な刃物で口と目を側面に烏帽子を被る男性を表現した人形、刀子や刀、船の形代などの祭祀に関連するもの、草履の芯、下駄、唐傘の部品、中央を円形にくりぬいた円盤、漆塗りの皿・椀・しゃもじ、杓子、フォーク形製品、箸、曲物、折敷、独楽、羽子板状木製品、木簡状木製品などさまざまのものがある。これらは中世(13～14世紀)のものと考えられ、当時の生活がうかがえる貴重な資料といえる。そして、土師器皿の内面に墨で描かれた動物は特に注目されるものである(本号32頁参照)。描かれた絵が「馬」とすれば、木製品の形代と同時に祭祀に使用された可能性が高い。溝の周辺で水に関連する祭祀がおこなわれたのであろう。

(石尾政信)

2.梯木林遺跡

所 在 地　舞鶴市大字多門院小字梯木林

調査期間　平成12年５月16日～７月28日

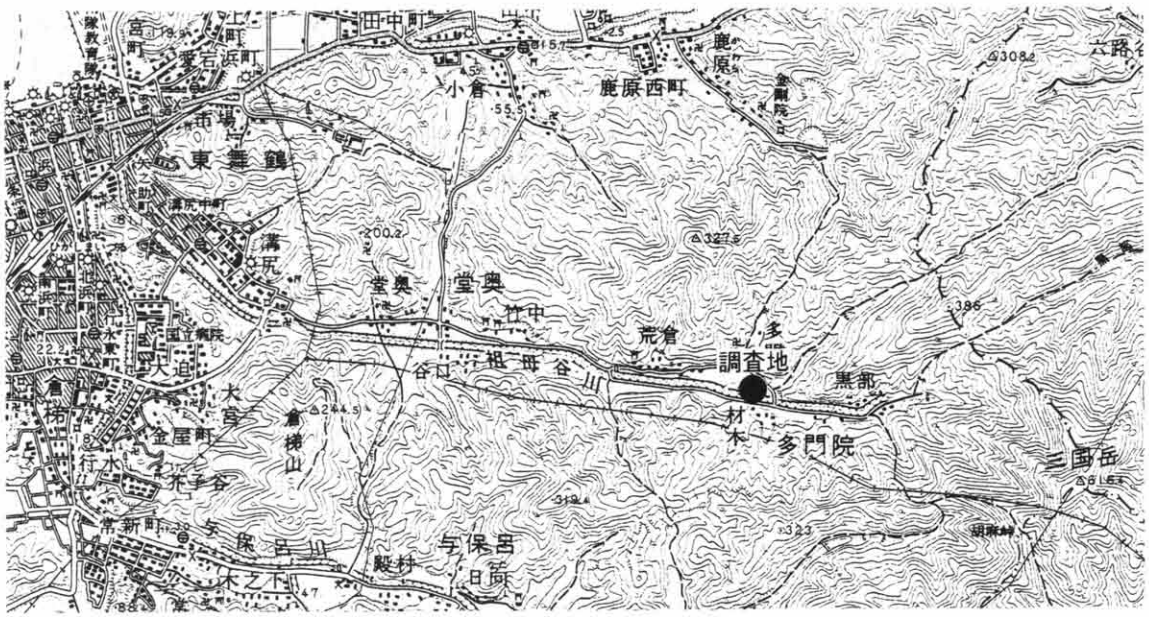
調査面積　約700㎡

はじめに　今回の調査は、近畿自動車道敦賀線の建設工事に伴う土取り工事に先立ち、日本道路公団の委託を受けて実施した。

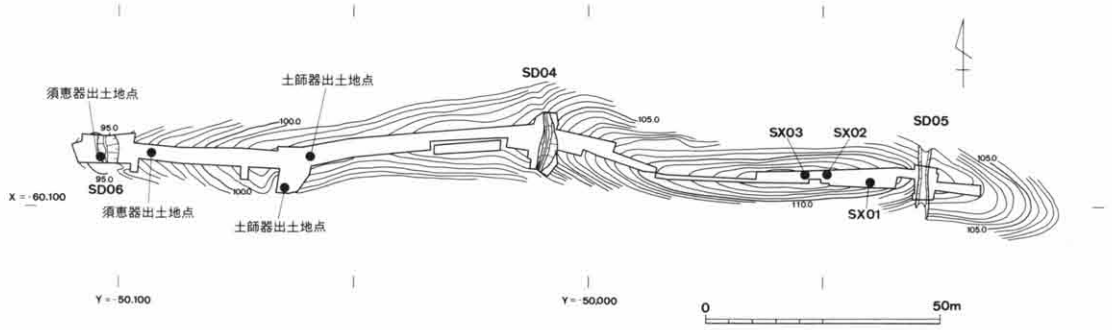
調査地は東舞鶴の祖母谷川上流に位置する丘陵上にある。丘陵は全長約200mの東西にのびるやせ尾根で、標高は最高所で約113mである。丘陵を横切る２本の堀切状の溝があることから中世の山城と推定されていた。

調査概要　発掘区内は表土直下で赤褐色または黄褐色の地山となり、遺構はすべてこの地山上面で検出した。調査の結果、丘陵東部の最高所付近で経塚と考えられる遺構３基(ＳＸ01～03)と山城の堀切３本を確認した。

ＳＸ01　長辺1.4m×短辺1.3m・深さ0.5mの楕円形の石積み土坑である。土坑の西端の底には約20cm四方の石を平坦な面を上にして置き、その上に東播系須恵器の甕を据えて、同じく東播系須恵器のこね鉢で蓋をする。さらにその周囲を石で囲った後、その上に人頭大の石を高さ約0.4～0.5m積む。甕の中から土師器皿が１点、甕の北側を押さえる石の下から「宣和通寶」が１点出土した。甕・こね鉢いずれも13世紀初頭前後の資料である。同様な遺構には福知山市の大道寺



第１図　調査地位置図(1/50,000)



第２図　梯木林遺跡調査区配置図

廃寺例があり、ここからは経筒３本が甕の中から見つかっており、ＳＸ01も経塚と考えられよう。

ＳＸ02　長辺0.8m×短辺0.55m・深さ0.3mの掘形内に平面「Ｕ」字形に石組みをした遺構である。石組みの内法は直径約0.2mあり、高さ２～３段分(約0.4～0.5m分)が残る。

ＳＸ03　長辺1.1m×短辺0.85m・深さ0.45mの土坑である。土坑の底付近で銭貨が８枚出土したほか、埋土からは13世紀前半の土師器皿や東播系須恵器甕が破片で出土した。

これらの遺構もＳＸ01との関係から同様な経塚遺構と考えられる。

山城の堀切は、丘陵の中央および東西の端で、３本(ＳＤ04～06)を確認した。いずれも地山を掘り込んで造られている。ＳＤ04・06は断面形が「Ｖ」字形を呈し、丘陵の西側からの攻撃に備えている。ＳＤ05は溝底の断面形が「Ｕ」字形で西側の立ち上がりがきつく、東側からの攻撃に備えている。溝からの出土遺物はなかった。

なお丘陵西部の表土、地山上面からは古代の須恵器・土師器が炭化物と混じってコンテナ半箱ほど出土した。

出土遺物には土師器・須恵器・黒色土器・銭貨がある。東播系須恵器と銭貨、土師器の一部は経塚状遺構から出土した。東播系須恵器にはこね鉢と甕があり、いずれも13世紀前半の資料である。銭貨はすべて北宋銭で、「嘉祐元寶」(初鋳1056年以下初鋳年)・「紹聖元寶」(1094年)・「熙寧元寶」(1068年)・「元祐通寶」(1086年)・「至道元寶」(995年)・「元豊通寶」(1078年)・「宣和通寶」(1119年)などがある。

(中島史子)

3.南稲葉遺跡（みなみいなば）

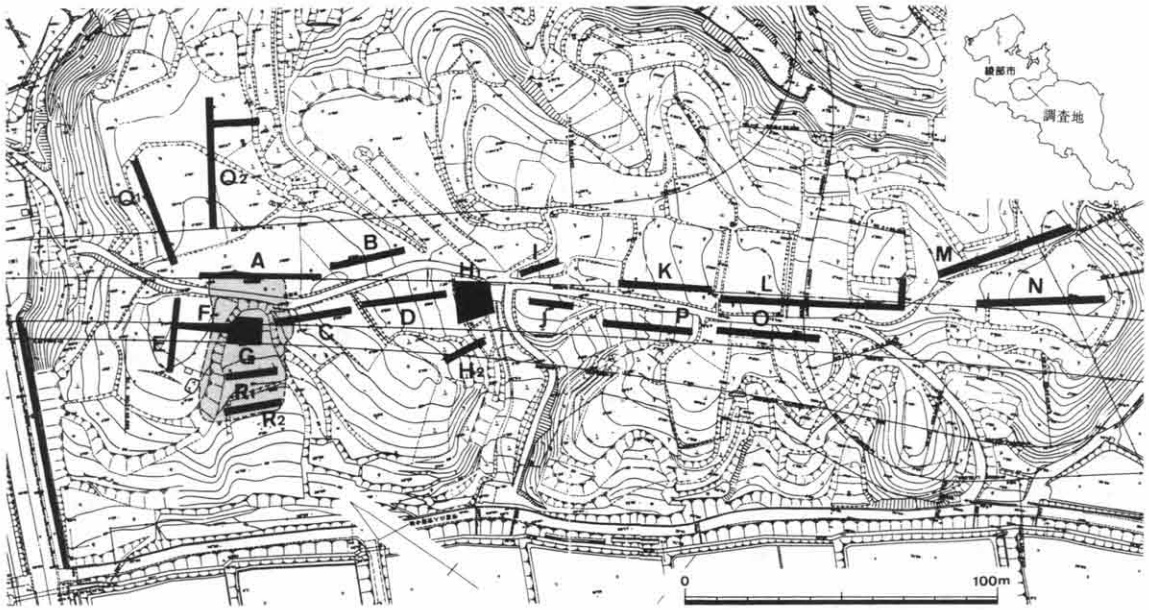
所 在 地　綾部市安国寺町南稲葉

調査期間　平成12年5月8日～8月9日

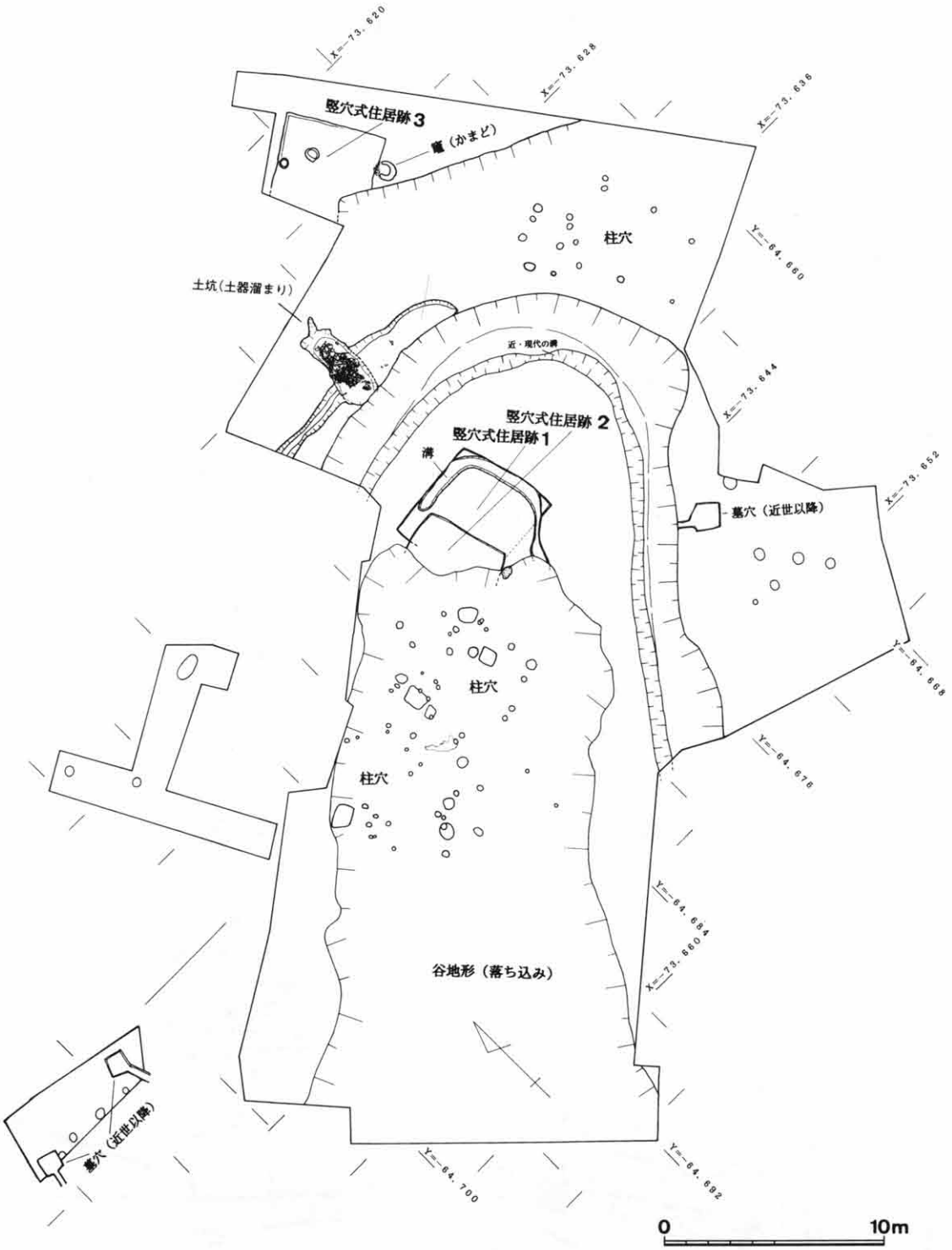
調査面積　約1,000㎡

はじめに　この調査は、京都縦貫自動車道の建設工事に伴い、建設省近畿地方建設局の依頼をうけて実施した。南稲葉遺跡は、これまでは中世以降の遺跡と考えられていた。しかし、調査の結果は予想に反し、飛鳥時代（7世紀）～平安時代（10世紀）にかけての集落跡を検出するに至った。今回は平成11年度の試掘結果を受け、特に遺構・遺物が多く検出された地点について実施した（第1図）。標高は丘陵平坦部で約100m、谷部の最下部で94mである。

調査の概要　主な検出遺構は、竪穴式住居跡3基、掘立柱建物跡とみられる多数の柱穴、土坑（土器溜り）である（第2図）。竪穴式住居跡はいずれも方形である。残存状況はよくないが、排水溝・土坑・竈をもつものもある。時期は、飛鳥時代（7世紀）を中心とする。さらに直径20～25cmほどの柱穴を、丘陵上や谷部から多数検出した。掘立柱建物跡とみられる。柱穴内出土の遺物から、平安時代（10世紀）となる。土坑（3.2m×1.2m）は丘陵上の縁辺部にあり、炭や多量の土器が投棄されたものである。土師器の竈形土製品や甑・甕などの煮沸具は特筆される。すべて細かく破砕されていた。時期は奈良時代（8世紀）のものである。出土遺物は、主に土師器と須恵器で、全体の9割以上が土師器である。主な器種は、竪穴式住居跡・土坑・柱穴などの遺構に伴って、



第1図　トレンチ配置図（トーン部は今回の調査区）



第２図　調査区遺構全体図

土師器の甕・杯・土馬・竈や須恵器の杯・蓋・椀などがある。調査の結果、南稲葉遺跡は、飛鳥時代から平安時代にかけて、丘陵上の平坦地ばかりでなく、谷部のゆるやかな斜面部も利用していたことが分かった。多くの煮沸具や土馬などの出土から、日々の炊事や祭事をごく日常的に営んだ一般的な集落といえる。当地域の歴史を考える上で一つの資料を追加した。

（黒坪一樹）

4.善願寺遺跡第２次

所 在 地　船井郡園部町木崎町善願寺谷

調査期間　平成12年５月８日～６月29日

調査面積　約640㎡

はじめに　善願寺遺跡は園部川の一支流である陣田川東岸に展開する丘陵裾部分に立地し、1976年に京都縦貫自動車道建設工事に先立って発掘調査がなされ、古墳時代後期の横穴式石室墳２基の他、平安後期から中世にかけての遺物散布地であることが確認された。また、伝承により、中世寺院である善願寺の所在地である可能性が指摘されている。

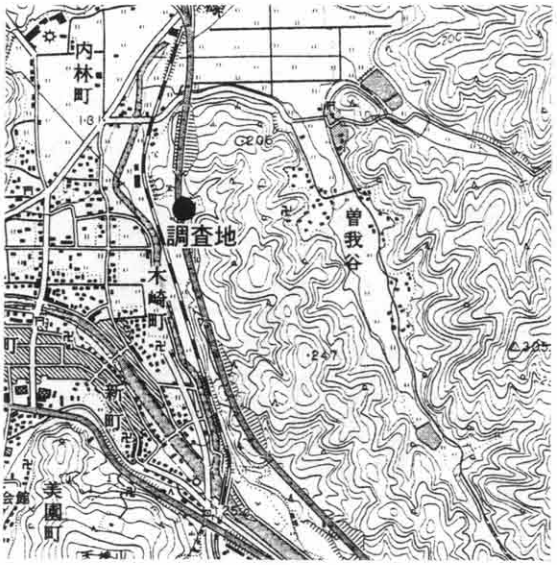
今回の発掘調査は京都丹波道路木崎高架工事に先立ち、日本道路公団関西支社の依頼を受けて実施した。

調査の概要　今回の調査は橋脚建設に伴い、損壊する部分を対象として10か所のトレンチを設定し、遺構検出に努めた。その結果、調査対象地の南半部分では遺構・遺物とも確認することができず、遺構の分布範囲は遺跡の北部に位置する丘陵南斜面に相当するものと判断された。

南半に設定した各トレンチでは、竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・溝・土坑などを検出した。竪穴式住居跡は弥生時代後期後半に属する方形プランのものを１基検出したが、遺存状況が悪く全容は不明である。掘立柱建物跡は真北から約45°主軸を東に振るものを２棟以上確認した。柱穴内出土遺物から鎌倉時代を中心とする建物跡と考えられ、この時期の集落の存在を確実なものとした。その他、遺構に伴うものではないが、弥生時代中期の土器や石器・サヌカイト剥片を包含層中から検出し、同時期に属する遺構群が周辺に存在することをうかがわせた。

まとめ　今回の調査により善願寺遺跡は弥生時代中期から鎌倉時代にかけての複合遺跡であることが明らかとなった。また、伝承にある善願寺の存在を裏付けることはできなかったが、同時期の集落が形成されていることは確認できた。その中心的施設として寺院の存在を考えることは十分可能であり、今後周辺部の調査成果に期待したい。

（石崎善久）



調査地位置図(1/25,000)

5.稲葉遺跡第6次

所 在 地　京田辺市田辺久戸8番地他

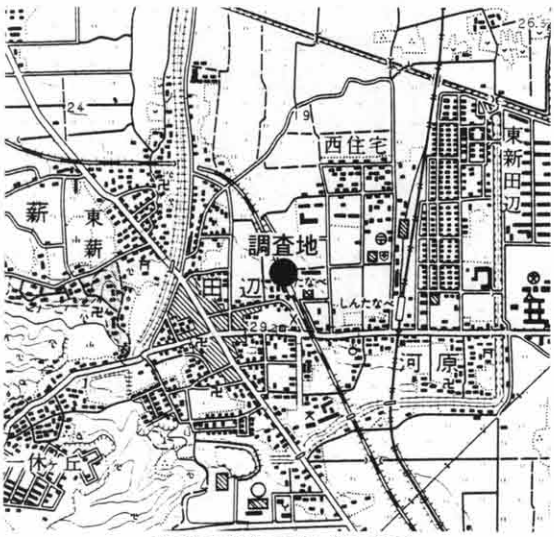
調査期間　平成12年4月18日～8月4日

調査面積　約565m²

はじめに　稲葉遺跡は、西日本旅客鉄道株式会社(ＪＲ西日本)京田辺駅西側から近鉄新田辺駅西側まで、東西約550m・南北約950mにわたる遺跡である。

調査の概要　今回の調査は、ＪＲ西日本の片町線輸送改善計画による京田辺駅改良工事に伴って、ＪＲ西日本の依頼を受けて、昨年度に引き続いて行ったものである。今年度の調査は、駅の西側で2か所、東側で2か所の合計4か所で実施した。調査区名は、着手順に、京田辺駅仮設駅舎の北側を1区、駅東側を2区、仮設駅舎東側を3区、2区西側の上り線ホームとの間を4区とした。

調査成果　1区では、調査区南西隅で、条里型方格地割りの坪境溝を検出した。この溝は、中世後期以降、鉄道敷設までの間、少しずつ位置をずらしながら存続したようである。この他、江戸時代の田畑の区画溝とみられる東西・南北方向の溝を検出した。南北方向の溝には中世前期のものもあり、方格地割りが中世前期に溯る可能性が考えられる。この他、中世後期の土坑などを検出した。2区は近世以降の水田の造成によって大きく削平を受けており、遺構は検出されなかった。3区では、中世前期の南北溝とピットのほか、弥生時代前期後半の土坑が検出され、甕1個体が横倒しになった状態で出土した。4区では、弥生時代の土坑が検出され、サヌカイトの剥片などが出土した。



調査地位置図(1/25,000)

まとめ　今回の調査では3区と4区で弥生時代の土坑が検出された。今回の調査地は方形周溝墓が検出された第4次調査地点の南側の丘陵縁辺部に立地し、稲葉遺跡の弥生時代集落の一部に当たると思われる。また、調査地周辺に見られる方格地割りが中世前期に溯る可能性を示す資料が得られた。

(森島康雄)

6.大畠（おおはた）遺跡第５次

所 在 地　相楽郡木津町相楽岸間堂

調査期間　平成12年４月27日～６月29日

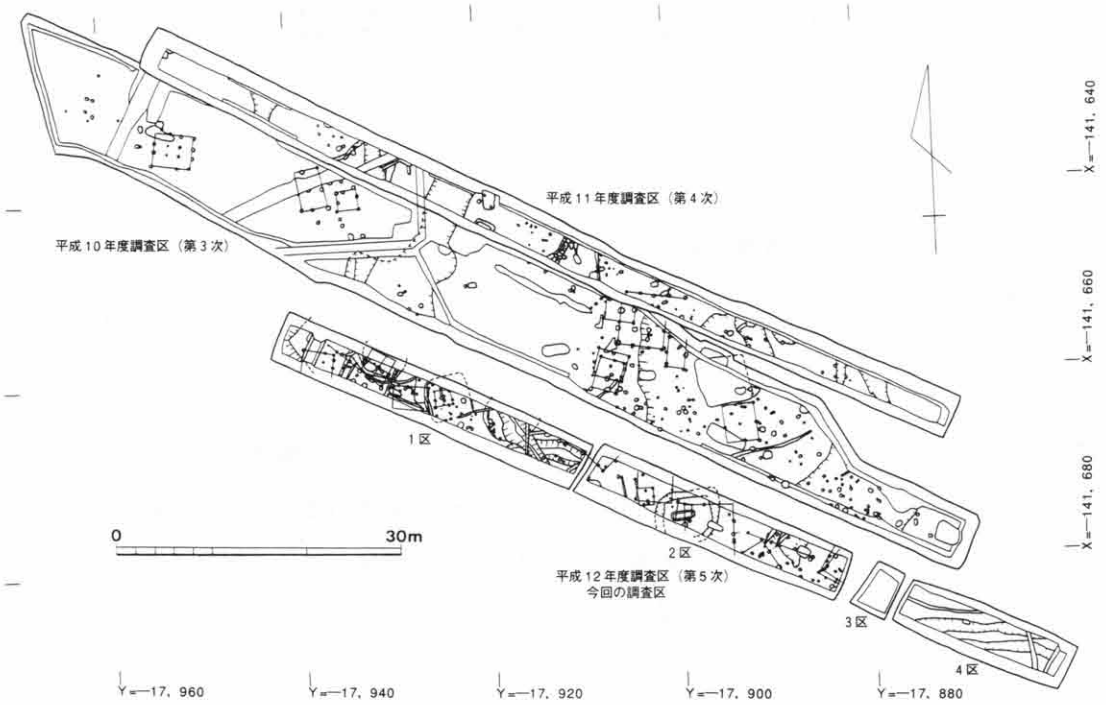
調査面積　約400m²

調査概要　この調査は、国道24号京奈道路建設に先立ち、建設省近畿建設局京都国道工事事務所の依頼を受けて実施したものである。調査の対象である大畠遺跡は、京都府の南端に広がる平城山丘陵の北側の裾に位置しており、相楽山銅鐸出土地の発掘調査中に遺物散布地として発見された。以来、今日にいたるまで５回の発掘調査が実施され、調査の結果、縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡であることが判明した。中でも年代的なピークは弥生時代中期と古墳時代、奈良時代の３時期にみられ、それぞれ集落や墓・瓦工房として性格付けがされている。これら一連の調査のうち、平成10年度以降、今日までの３次の調査（３～５次調査）は、いずれも京奈道路建設に係る同一事業を原因とするもので、第２図に示したとおり、調査地は道路路線方向に長く隣接している。この地区は、大畠遺跡の中では北端に近く、地形的には丘陵裾に形成された複合扇状地形が沖積低地に遷移する境界付近に位置する。今回の調査では、調査区の幅が４ｍと狭いにもかかわらず、多数の遺構・遺物が検出された。以下、その種類ごとに概説する。

竪穴式住居跡　調査区の西寄りで３基確認した。いずれも遺存状態が悪く、床面まで削平を受けて、深く掘り込まれた周壁溝と柱穴を確認したにとどまる。住居の平面プランは円形・方形・多角形と多様で、主柱穴は４本を基本とし、同一円周上に等間隔で配する。出土遺物が少なく時期の決め手を欠くが、５世紀後半の土器を多量に包含する溝に切られている例があるので、それに先行する時期に造営されたものと推測される。

第１図　調査地位置図(1/50,000)

掘立柱建物跡　調査区の東寄りを除いて多数の柱穴が検出された。掘形は円形あるいは隅丸方形プランで、遺存状態は概して良好で、柱根を残すものも少なくない。建物としての復原作業は正確には果たせていないが、一案を図に提示しておく（第２図）。それによると建物方位は東西南北を意識しているものの、正方位に対して傾いたものも多く、厳密な企画性を看取するのはやや困難である。出土遺物が少なく時期設定は難しいが、遺構の重複関係や過去の調査成果を勘案すれば、概して６世紀に営まれた可能性が高い。



第２図　遺構平面図(第３～５次調査区部分・1/800)

方形周溝墓(古墳)　調査区のほぼ中央で１基検出した。墳丘(台状部)の規模は一辺約6.0m(東西溝心々間)を測る。中心主体が残存しており、箱形木簡の痕跡を墓壙内にとどめる。出土遺物が極めて少なく、墓壙埋土中から弥生土器もしくは土師器の小片を得たにすぎない。

土器棺　調査区の東西両端で合わせて２基検出した。いずれも後出遺構に切られ残存状態は悪い。比較的残りのよい１例は、弥生Ⅳ期の中形甕を横位に寝かせて棺本体とした構造をとる。

その他の遺構　この他、調査区の各所で大小の溝(状土坑)を検出した。このうち比較的規模の大きなものには、完存率の高い遺物(土師器・須恵器など)が多量に埋土中に混入する傾向があり、手こね土器や滑石製紡錘車が共伴するなど、単純に廃棄行為と理解できない出土状況を示すものが多い。時期は、陶邑編年でＴＫ208～ＴＫ47型式の幅に納まる。

まとめ　今回の調査で検出された遺構は、時期的には大きく弥生時代中期と古墳時代中～後期に二分できる。弥生時代の遺構は土器棺２基が確実で、これに方形周溝墓１基が加わる可能性がある。つまり、隣接する３次調査の成果も加味すると、この時期には調査区一帯は墓域として利用されており、調査区の南の台地上に展開していた集落は、北側では当地区にまで及んでいないことが判明した。一方、古墳時代では竪穴式住居跡や掘立柱建物跡・溝などが挙げられ、調査区一帯には集落が営まれていることが明らかとなった。集落を構成する家屋の形式は、古墳時代の中で竪穴式住居から掘立柱建物へと遷移しているようで、６世紀にはほとんどの住居が掘立柱構造を採用するに至る。掘立柱建物のみで集落を構成する例としては、近畿地方でも比較的早いもので、近年調査された精華町森垣外遺跡とともにその先進性が注目される。

(伊賀高弘)

府内遺跡紹介

88.私市円山古墳

－遺跡公園の可能性－

遺跡の紹介　ＪＲ山陰線高津駅のプラットホームに立って北を望むと、近畿自動車道敦賀線が美しく整備された古墳の下をトンネルで抜けているのが見える。この古墳は、1988年に当調査研究センターが発掘調査を実施し、鉄製甲冑・武器、胡籙金具・青銅鏡をはじめとする多量の副葬品をもち、葺石・埴輪を巡らせた京都府最大の造出付円墳、私市円山古墳である。古墳は径81m・高さ10mをはかり、墳頂には２基の組合式箱形木棺と１基の土壙墓が営まれ、副葬品は典型的な中期古墳の様式である。この古墳の詳細は、すでに『京都府遺跡調査概報』第36冊に紹介され、『京都府埋蔵文化財情報』第31～33号でも個別遺物の記事が出ているから、ここでは詳述しない。中丹は、古墳時代前期末から中期初頭にかけて、景初四年銘盤竜鏡を副葬した福知山市広峯15号墳、大型造りだし付き方墳の並立する綾部市菖蒲塚・聖塚古墳、近年発見された前方後円墳である綾部市四文字山１号墳など有力な在地首長の存在が推測される。私市円山古墳は、これら小地域の盟主的首長を越えて、領域支配を達成した政治的・軍事的指導者であり、畿内政権と緊密に結びついた被葬者像が想定されている。

1988年８月に、この古墳の発見が報ぜられると、綾部市民をはじめ全国からの保存の要望が寄せられ、これに応えて、日本道路公団は切土工法からトンネル工法へと設計変更し、古墳の保存が決定した。そして、綾部市では整備に先立つ発掘調査を実施し、60,000個の葺石・897本の埴輪レプリカをもって築造当時の姿に復原した私市円山古墳公園が、1993年５月２日にオープンする運びとなった。山腹を刻む園路によって古墳へいたると、途中に解説板とあずま屋、墳頂には陶板による主体部の写真が配されている。墳頂に立つと、眼下に由良川、遠く綾部や福知山の市街地への眺望も優れており、絶好のハイキング・コースになっている。また、夜間にはライトアップされ、山陰線や併走する府道の車窓からもその印象的な外観を目にすることができる。

私市円山古墳公園

遺跡の意義　築造当初の姿に復原整備された古墳公園は、全面に葺石の葺かれた古墳が、人工

イギリスの遺跡公園－ハドリアヌスの壁とその博物館－
（左：ハウステッドローマ式城塞・右：チェスターローマ式城塞）

的な景観にほかならないことを教えてくれるものとして、大変印象的である。最初に設計された神戸市五色塚古墳を皮切りに、府内でも加悦町の古墳公園がよく知られており、埋蔵文化財の活用が課題とされる現在では、復原された古墳が生涯教育の場として享受されることは望ましいことである。また、京都市天皇ノ杜古墳・向日市物集女車塚古墳などでは、古墳を核とした公園＝コミュニティ・スペースがつくられている。これらは、遺跡の調査・研究を基礎として、現代社会に文化財を活用した事例として、加悦町古墳公園ならびに私市円山古墳などの事例とともに高く評価されよう。考古学的な成果を研究者だけのものにとどめず、ひろくプレゼンテーション＝社会に還元していく方法にこそ、今後は知恵が絞られねばならないだろう。

ところで、遺跡をどのようにプレゼンテーションするかは、日本だけでの問題ではない。いまだに整備の是非の論議のかまびすしいギリシャ・クレタ島クノッソス宮殿遺跡では、失われた柱や壁画などを調査に基づいて「復原」している。イングリッシュ・ヘリティジによるイギリスの遺跡公園では、例えば、ローマのハドリアヌス皇帝がイングランド北部のニューカッスルとカーライルの間に築いた長城、ハドリアヌスの壁では、途中のローマの建築様式の城塞が公園として整備され、そのいくつかにはつつましやかな博物館が併設されている。これとは反対に、徹底した復原を行ったのが、ヨーク市にあるヨルビック・バイキングセンターである。ここでは、「タイム・カー」に乗ってバイキング時代のジオラマを探検するという屋内アミューズメント施設であるが、カッパー・ゲート遺跡の発掘と詳細な研究・分析がことばやにおいにいたるまでの復原を可能とした。

遺跡の発掘調査と復原整備は車の両輪であるが、その車は過去社会ではなく、実は現代から未来へと向かっているのである。造られた(復原された)過去は、一体誰のものなのか。この答えを出すのは、ひとり考古学者のみにとどまらない。

遺跡の案内　ＪＲ綾部駅からタクシーで。車の場合、麓に駐車場あり。入場無料。

（河野一隆）

長岡京跡調査だより・74

前回『たより』以降の長岡京連絡協議会は、５月24日・６月28日・７月26日に開催された。報告のあった京内の発掘調査は宮内３件、左京域８件、右京域９件であった。京外の５件を併せると、合計25件となる。

調査地一覧表(2000年７月現在)

番号	調査次数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第389次	7ANBUK-2	向日市寺戸町梅ノ木9	(財)向日市埋文	5/10～5/19
2	宮内第390次	7ANDTK-6	向日市寺戸町殿長22-1・3	(財)向日市埋文	6/1～9/末
3	宮内第391次	7ANCMM-7	向日市向日町南山7	(財)向日市埋文	6/28～7/4
4	左京第443次	7ANFMR-3	向日町上植野町持丸5-1、他	(財)向日市埋文	3/22～5/2
5	左京第447次	7ANDHC-7	向日町森本町東ノ口41-3、4	(財)向日市埋文	5/19～5/23
6	左京第448次	7ANDTK-6	向日町森本町高田31	(財)向日市埋文	5/22～5/24
7	左京第449次	7ANEKZ-11	向日町鶏冠井町清水8-1	(財)向日市埋文	6/2～6/22
8	左京第451次	7ANDTK-6	向日町森本町森本8-4	(財)向日市埋文	6/27～7/25
9	左京第444次	7ANMKU-1	長岡京市神足垣外ケ内3、他	(財)長岡京市埋文	4/12～5/19
10	左京第445次	7ANMKK-6	長岡京市神足八ノ坪12、他8筆	(財)長岡京市埋文	4/17～6/25
11	左京第450次	7ANXOO-2	京都市伏見区羽束師菱川町	(財)京都市埋文研	6/26～7/1
12	右京第668次	7ANGAR-6	長岡京市井ノ内朝日寺27-2	(財)長岡京市埋文	4/5～7/8
13	右京第671次	7ANKKS-4	長岡京市長岡二丁目108-3	(財)長岡京市埋文	4/3～6/1
14	右京第673次	7ANKNA-4	長岡京市長岡二丁目224-7	(財)長岡京市埋文	5/8～5/26
15	右京第674次	7ANKNC-4	長岡京市天神二丁目20-1	(財)長岡京市埋文	5/10～5/22
16	右京第675次	7ANKNT-7	長岡京市開田四丁目610-4	(財)長岡京市埋文	6/1～6/30
17	右京第676次	7ANINC-11	長岡京市今里二丁目17-7	(財)長岡京市埋文	6/12～7/12
18	右京第678次	7ANQNC-1	長岡京市勝竜寺西町3-1	(財)長岡京市埋文	7/17～10/27
19	右京第679次	7ANIKB-2	長岡京市一文橋二丁目59-1	(財)長岡京市埋文	7/24～9/21
20	右京第677次	7ANSOG-2	大山崎町円明寺小字茶屋前25	大山崎町教委	6/5～6/7
21	中海道第51次	3NNANK-51	向日市物集女町中海道6-1	(財)向日市埋文	7/3～8/11
22	中海道第52次	3NNANK-52	向日市物集女町中海道59-6	(財)向日市埋文	7/11～8/10
23	山城国府跡61次調査	7XYSTH-15	大山崎町大山崎高橋13-39	大山崎町教委	3/6～4/21

24	大山崎町37次遺跡確認調査	7ANSCE-4	大山崎町円明寺小字茶屋前25	大山崎町教委	6/16～6/23
25	下植野南遺跡		大山崎下植野門田地内	(財)京都府埋文	4/11～2/末

長岡京跡発掘調査抄報

宮内　第390次調査は、朝堂院中軸線上の北辺官衙(殿長遺跡)で行われた。検出遺構は北一条大路(旧北京極大路)の南側溝(幅３ｍ)と、これに並行する柵列が検出され、陶硯など文具が出土した。

左京　向日市域の調査では、第443次は流路・護岸用の杭列が、第447次は一条条間北小路(旧一条大路)の南側溝、一条二坊十町(旧南一条二坊十五町)の町内溝が出土した。第448次調査では、南北方向の柵列(ＳＡ44807)は東二坊大路西側溝心から28.5尺の位置にあり、大路に面する溝・築地構造を知るうえで重要な資料である。第451次では複数の溝が検出されたが、溝ＳＤ45102が東一坊大路東側溝に相当する。

長岡京市域の調査では、第444次は六条条間小路(旧五条大路)北側溝(ＳＤ02)、井戸枠が幅広の縦板横桟組の立派な井戸(ＳＥ19)が見つかっている。第445次では、土坑(ＳＸ05)内に須恵器壺Ｌが横向きに据えられており、埋納遺構として報告された。

右京　長岡京市域の調査では、第668次は一町の半分を区画する東西溝(ＳＤ08・09)が検出された。また、この両溝の間は３ｍ(10尺)を測り、築地に想定される。井戸(ＳＥ01)からは下駄・木偶・定規・曲物等木製品のほか、銭貨「神功開寶」が出土した。第673次では幅３ｍの五条条間小路(旧四条大路)南側溝が、第675次では六条条間南小路(旧六条条間北小路)北側溝が検出された。

京域外　大山崎町の山崎61次調査では、溝ＳＤ04は山陽道の西側溝で路面も見つかっている。大山崎37次調査でも山陽道西側溝が引き続き調査されている。下植野南遺跡では中世の久我畷の両側溝が確認された。また、古墳時代の住居跡、弥生時代中期の連接する方形周溝墓群20数基を調査中である。

(竹井治雄)

センターの動向(00.5～7)

1．できごと

5．1　佐山遺跡(久御山町)発掘調査開始

8　南稲葉遺跡(綾部市)発掘調査開始
木津城山遺跡(木津町)発掘調査開始
善願寺遺跡(園部町)発掘調査開始

9　沖田遺跡(大宮町)発掘調査開始

11　今林遺跡(園部町)発掘調査開始

11～12　全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(於：奈良市)福嶋利範事務局次長、安田正人総務課主幹出席

15　三山木遺跡(京田辺市)発掘調査開始

16　梯木林遺跡(舞鶴市)発掘調査開始

19　職員研修(於：当センター)講師：岡崎研一主査調査員「荘園遺跡調査課程」

20～21　日本考古学協会総会(東京都)小池寛、田代　弘主任調査員出席

24　長岡京連絡協議会(於：当センター)

25　太田遺跡(亀岡市)発掘調査開始

26　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議(於：京都市)福嶋利範事務局次長、安田正人総務課主幹出席

6．1　シリガイ古墳群(宮津市)試掘調査開始
東山遺跡(京北町)発掘調査開始

2　森垣外遺跡(精華町)発掘調査開始

8～9　全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(於：浜松市)福嶋利範事務局次長、小山雅人調査第1課長、安田正人総務課主幹出席

15　大畠遺跡(木津町)関係者説明会

16　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックＯＡ委員会(於：元興寺文化財研究所)森島康雄、河野一隆調査員出席
職員研修(於：当センター)講師：伊賀高弘調査員「官衙遺跡調査課程」、福島孝行調査員「写真測量の外注管理課程」

19　京都府開庁記念日式典(於：府民ホール)福嶋利範事務局次長出席

20～22　監事監査

21　池上遺跡(八木町)発掘調査開始

23　梯木林遺跡現地説明会

26　第59回役員会・理事会(於：ルビノ京都堀川)　樋口隆康理事長、中澤圭二副理事長、木村英男常務理事、上田正昭・藤井　学・都出比呂志・井上満郎・中尾芳治・高橋誠一・三品廣実・津守俊一各理事、竹延信三監事出席

29　井上満郎理事、佐山遺跡視察
善願寺遺跡関係者説明会、発掘調査終了(5．8～)
大畠遺跡、発掘調査終了(4．27～)

7．4　佐山遺跡関係者説明会

6　赤坂今井墳丘墓(峰山町)発掘調査開始

13　東禅寺古墳群(宮津市)試掘調査開始

14　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議(於：大津市)伊

野近富企画係長、石井清司主任調査員出席

17　植物園北遺跡(京都市左京区)発掘調査開始

26　長岡京連絡協議会(於：当センター)

27　沖田遺跡現地説明会

28　沖田遺跡、発掘調査終了(5．9～)

2．普及啓発活動

6.24　第88回埋蔵文化財セミナー(於：メディアス亀岡)『南丹波の古代を考える』：野々口陽子調査員「余部遺跡の発掘調査について」、中澤　勝亀岡市教育委員会主任「坊主塚古墳、池尻廃寺の発掘調査」、増田孝彦主任調査員「太田遺跡の発掘調査」

大宮町沖田遺跡出土の墨書土師器皿(17・18頁参照)
中世では珍しい墨書絵画土器である。描かれた動物が何かは不明である。

受贈図書一覧(00. 5～7)

(財)北海道埋蔵文化財センター

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第139集　花岡2遺跡・花岡3遺跡、同第140集　白滝遺跡群Ⅰ、同第141集　日東遺跡、同第142集　シラリカ2遺跡、同第143集　豊野6遺跡、同第144集　キウス4遺跡(5)、同第145集　内園6遺跡、同第146集　ユカンボシC15遺跡、同第147集　対雁2遺跡(1)、同第148集　キウス遺跡(6)、同第149集　北伏古2遺跡、同第150集　都遺跡、同第151集　東町遺跡、北海道立埋蔵文化財センター年報1、掘り出された北の歴史

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

所報2

青森県埋蔵文化財調査センター

青森県埋蔵文化財調査報告書第174集　千苅(1)遺跡発掘調査報告書、同第271集　モダシ平遺跡、同第272集　櫛引遺跡Ⅱ、同第273集　丹内遺跡、同第274集　山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡、同第275集　新町野遺跡Ⅱ、同第276集　畑内遺跡Ⅵ、同第279集　三内丸山(6)遺跡Ⅱ、同第280集　砂子遺跡、同第287集　岩ノ沢平遺跡、研究紀要第5号

水沢市埋蔵文化財調査センター

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第8集　仙人西遺跡、同第11集　面塚遺跡、同第13集　杉の堂遺跡、同第14集　下植田遺跡、岩手県水沢市文化財調査報告書第34集　水沢遺跡群範囲確認調査、胆沢城跡平成10年度発掘調査概報、同平成11年度

(財)いわき市教育文化事業団

年報10、いわき市埋蔵文化財調査報告第65冊　白岩堀ノ内遺跡、同第66冊　下川子田横穴群、同第70冊　連郷B遺跡、同第71冊　郡遺跡・広畑B遺跡

(財)ひたちなか市文化スポーツ振興公社文化財調査事務所

(財)ひたちなか市文化スポーツ振興公社文化財調査報告第19集　武田石高遺跡、同第20集　船窪遺跡Ⅲ

(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

研究紀要第8号、年報第10号、栃木県埋蔵文化財調査報告書第127集　辻の内遺跡・柿の内遺跡、同第166集　下古館遺跡、同第221集　杉村北遺跡、同第222集　多功南原遺跡、同第234集　那須官衙関連遺跡Ⅵ、同第235集　那須官衙関連遺跡発掘調査報告Ⅱ、同第236集　御霊前遺跡Ⅰ、同第237集　小丸山北遺跡・山苗代A遺跡、同第238集　西物井遺跡、同第239集　成願寺遺跡、同第240集　伊勢崎Ⅱ遺跡、同第241集　杉村・磯岡・磯岡北

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第257集　東長岡戸井口遺跡、同第260集　三ツ子沢中遺跡、同第262集　高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡、同第263集　甘楽条里遺跡(大山前地区)・福島椿森遺跡、同第267集　乗附長坂遺跡・乗附中原遺跡

(財)千葉県文化財センター

千葉県文化財センター調査報告第357集　四街道市出口・鐘塚遺跡

(財)印旛郡市文化財センター

(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第84集　大畑Ⅰ、同第125集　大竹林畑遺跡、同第154集　大竹林畑遺跡、同第158集　坂戸念仏塚西遺跡、同第160集　天神台遺跡、同第161集　萩原株木遺跡、同第163集　榎戸小富遺跡、同第165集　岩富榎戸遺跡、同第166集　向新田遺跡

(財)君津郡市文化財センター

(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書第7集　金井崎遺跡、同第161集　正源戸B遺跡・子者清水遺跡、同第163集　西谷古墳群・西谷遺跡、同第164集　山王台遺跡・内屋敷遺跡、同第165集　上用瀬遺跡、同第166集　神田遺跡Ⅱ

(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第80集　多摩ニュータウン遺跡、同第81集　多摩ニュータウン遺跡、同第84集　多摩ニュータウン遺跡、同第85集　多摩ニュータウン遺跡資料目録11、研究論集XⅧ、汐留遺跡

(財)かながわ考古学財団

かながわ考古学財団調査報告37　長津田遺跡群Ⅳ・宮之前南遺跡、同42　宮ヶ瀬遺跡群XⅥ、同43　池子遺跡群Ⅶ、同50　宮ヶ瀬遺跡群XⅦ、同58　長津田遺跡群Ⅴ・宮之前遺跡、同61　国分尼寺北方遺跡、同66　後山田南遺跡、同75天神谷遺跡、同84　陣屋谷戸やぐら群遺跡、同85　和田山やぐら群遺跡、同86　瀬戸町やぐら群・横穴墓、同87　高山横穴墓群、同95　半原屈中原遺跡、同96　大塚堂遺跡、同97　堂地谷やぐら群、同99　六浦三艘地区やぐら群、同98弁ヶ谷やぐら群、原東遺跡・川尻中村遺跡図録

(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

都築自然公園予定地内遺跡群(3)発掘調査報告

(財)山梨文化財研究所

研究報告第9集

(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書47上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書10、同49　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書、同51　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査

報告書24、同52　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19

富山県埋蔵文化財センター

年報平成10年度

富山市埋蔵文化財センター

史跡北代遺跡ふるさと歴史の広場整備事業報告書、上新保遺跡発掘調査報告、清水堂南遺跡・清水堂Ｂ遺跡、東老田Ⅱ遺跡、北代西山遺跡発掘調査報告書

(財)岐阜県文化財保護センター

岐阜県文化財保護センター調査報告書第52集　船山北古墳群・船山北古窯跡群・船山北遺跡、同第56集　高畑遺跡、同第63集　岩垣内遺跡16

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

平成11年度年報

(財)滋賀県文化財保護協会

紀要第13号

(財)栗東町文化体育振興事業団

栗東町埋蔵文化財発掘調査1998年度年報、1983年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集

大津市埋蔵文化財調査センター

大津市埋蔵文化財調査報告書30　史跡衣川廃寺跡整備事業報告書、同31　雄琴遺跡群発掘調査報告書

(財)大阪府文化財調査研究センター

池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸⅧ、同ＸＸ、(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第19集　真福寺遺跡、同第32集-2　東奈良遺跡、同第41集　駒ヶ谷遺跡、同第47集　久保田遺跡発掘調査報告書、河内平野遺跡群の動態Ⅶ、大阪文化財研究第17号、史跡池上曽根97・98、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸＸＩ

(財)大阪市文化財協会

長原・瓜破遺跡発掘調査報告ＸⅣ、同ＸＶ、長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅲ、難波宮址の研究第十一

(財)枚方市文化財研究調査会

継体大王とその時代、研究紀要第５集

(財)交野市文化事業団

交野市埋蔵文化財調査報告1999-Ⅰ　交野市車塚古墳群

高槻市立埋蔵文化財調査センター

高槻市文化財調査報告書第21冊　安満宮山古墳

(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県教育文化財団調査報告書62　古市古墳群２、同63　越敷山遺跡群、同64　島古墳群、同65　島小浜千速遺跡・石脇第３遺跡、同66　長谷古墳群・長和瀬谷田遺跡、同67　青谷上寺地遺跡１、同68　青谷上寺地遺跡２、岡益廃寺

岡山市埋蔵文化財センター

岡山市埋蔵文化財調査の概要1998、造山第２号古墳、備中高松城三の丸跡発掘調査概報、大供中道遺跡発掘調査概報

倉敷埋蔵文化財センター

年報６、倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第９集　古城池南古墳

(財)広島県埋蔵文化財調査センター

冠遺跡群Ⅶ、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第188集　沖田１号遺跡発掘調査報告書、同第189集　亀ノ尾第１号古墳発掘調査報告書、研究輯録Ｘ

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

原中村遺跡、空港跡地遺跡Ⅳ、県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報平成11年度、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成11年度、国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成11年度、高松城跡(西の丸町)・浜ノ町遺跡、年報平成11年度、研究紀要Ⅷ

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財発掘調査報告書第80集　住吉神社跡、同第81集　史跡松山城跡、同第82集　新池遺跡・市場南組窯跡、同第83集　湯築城跡、同第84集　阿方遺跡・矢田八反坪遺跡

久留米市埋蔵文化財センター

神道遺跡　久留米市文化財調査報告書第154集、庄島侍屋敷遺跡　同第155集、筑後国府跡　同第156集、鳥飼小学校校庭遺跡　同第157集、木塚遺跡　同第158集、今泉遺跡　同第159集、金丸遺跡　同第160集、平成11年度久留米市内遺跡群同第161集、筑後国府跡　同第162集、山川前田遺跡・国指定天然記念物水縄断面　同第163集、むかしむかしあるところに・・・

深川市教育委員会

深川市文化財調査報告12　北区１遺跡Ⅱ、同14納内４遺跡・納内８遺跡

盛岡市教育委員会

聖寿禅寺

七戸町教育委員会

七戸町埋蔵文化財調査報告書第29集　矢倉遺跡Ⅱ、同第30集　膝森(2)遺跡、同第31集　史跡七戸城跡北館Ⅸ

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第107集　平泉遺跡群発掘調査報告書

仙台市教育委員会

仙台城本丸跡の発掘　開府400年、仙台市文化財調査報告書第237集　船渡前遺跡発掘調査報告書、同第240集　原遺跡、同第243集　大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡、同第244集　郡山遺跡ＸＸ、同第246集　欠ノ上Ⅱ遺跡

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書第67集　大浦Ｂ遺跡発掘調査報告書、同第68集　米沢城東二の丸跡発掘調査報告書、同第69集　遺跡詳細分布調査報告書第13集、同第71集　大浦Ｃ遺跡発掘調査報告書、同第72集　横山古墳発掘調査報告書

昭和町教育委員会

昭和町かすみ堤

高畠町教育委員会

高畠町埋蔵文化財調査報告書第９集　新太夫遺

跡発掘調査報告書

会津坂下町教育委員会

会津坂下町文化財調査報告書第51集　宇内村北遺跡・大門遺跡・萩ノ窪窯跡・大畑遺跡・西碇塚・台ノ下塚、同第52集　出崎山遺跡

栃木県教育委員会

栃木県埋蔵文化財調査報告第233集　栃木県埋蔵文化財保護行政年報22、栃木県埋蔵文化財地図

群馬県教育委員会

前橋城遺跡Ⅰ、同Ⅱ、研究紀要18

群馬町教育委員会

群馬町埋蔵文化財調査報告第56集　町内遺跡Ⅷ

富士見市教育委員会

富士見市文化財報告第49集　富士見市内遺跡Ⅵ、同第50集　難波田城跡、同第51集　富士見市内遺跡Ⅶ、同第52集　富士見市内遺跡Ⅷ、富士見の地蔵菩薩、富士見市遺跡調査会調査報告第52集　勝瀬原遺跡群、勝瀬原の遺跡と文化財

志木市教育委員会

志木市の文化財第28集　志木市遺跡群10、同第29集　埋蔵文化財調査報告書１

市原市教育委員会

稲荷台遺跡・喜多仲台遺跡

富津市教育委員会

平成10年度富津市内遺跡発掘調査報告書、同平成11年度

袖ヶ浦市教育委員会

平成10年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書、平成11年度千葉県袖ヶ浦市市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ、同Ⅱ

木更津市教育委員会

木更津市文化財調査集報４、同５、大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅳ、塚原47号墳、椿古墳群・井尻遺跡２

銚子市教育委員会

粟島台遺跡

府中市教育委員会

府中市埋蔵文化財調査報告第21集　武蔵国府関連遺跡調査報告21、同第22集　武蔵国府関連遺跡調査報告22・武蔵国分寺跡調査報告２、同第23集　武蔵国府関連遺跡調査報告23・天神町遺跡調査報告３、同第24集　武蔵国府関連遺跡調査報告24、同第25集　武蔵国府関連遺跡調査報告25・武蔵国分寺跡調査報告３、同第26集　武蔵国府関連遺跡調査報告26

神奈川県教育委員会

神奈川県埋蔵文化財調査報告42

藤沢市教育委員会

藤沢市文化財調査報告書　第35集

小田原市教育委員会

小田原市文化財調査報告書第76集　二の丸御殿跡試掘調査の概要、同第77集　小田原城三の丸東堀第Ⅳ・第Ⅴ地点、同第78集　瓦長屋跡第Ⅰ地点、同第79集　久野多古境遺跡第Ⅲ地点、同第80集　小田原城三の丸大久保雅楽介邸跡第Ⅵ・Ⅶ地点、同第81集　平成９年度遺跡範囲確認調査、同第82集　千代北町遺跡第Ⅶ地点、同第83集　前川右近屋敷遺跡、千代南原遺跡第Ⅶ地点、小田原城三の丸藩校集成館跡の調査

中道町教育委員会

中道町埋蔵文化財発掘調査報告書第４集　供養寺遺跡・後呂遺跡

御代田町教育委員会

御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第28集　宮平遺跡、同第29集　町内遺跡99

王滝村教育委員会

田島・松原

金井町教育委員会

金井町文化財調査報告第11集　二反田遺跡

氷見市教育委員会

氷見市埋蔵文化財調査報告書第28冊　氷見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅶ

松任市教育委員会

松任市沖海底林調査報告書、松任城二の丸・三の丸跡、松任市博労ドウコウダ遺跡、宮永雁堀遺跡、松任市中奥・長竹遺跡

敦賀市教育委員会

越前愛発関調査概報Ⅱ、同Ⅲ

武生市教育委員会

武生市埋蔵文化財調査報告20　国府Ａ遺跡・国府Ｂ遺跡・元町遺跡・府中城跡Ｄ・Ｅ地点

鯖江市教育委員会

鯖江市埋蔵文化財調査報告第２集　三峯村墓地跡

掛川市教育委員会

平成４年度埋蔵文化財発掘調査年報、掛川の文化財、赤渕遺跡・中川原古墳、田島遺跡、神子遺跡、六ノ坪Ⅳ遺跡・源ヶ谷古墳群、蔵人古墳群・蔵人Ⅱ遺跡、溝ノ口遺跡

新居町教育委員会

新居町文化財調査報告書平成９年度、特別史跡新居関跡

安城市教育委員会

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第６集　中狭間遺跡

稲沢市教育委員会

野口・北出遺跡発掘調査報告書

一宮町教育委員会

城山、手取古墳群

今津町教育委員会

今津町文化財調査報告書第22集　日置前遺跡発掘調査概要報告書、同第23集　日置前廃寺発掘調査概要報告書、同第24集　今津舟橋遺跡発掘調査概要報告書

秦荘町教育委員会

秦荘町文化財調査報告書第11集　秦荘町・町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ、同第12集　金剛輪寺遺跡発掘調査報告書Ⅱ、同第13集　案孫子北遺跡、同第14集　町内遺跡発掘調査報告Ⅴ、同第15集　金剛輪寺遺跡発掘調査報告Ⅲ

野洲町教育委員会

1997年度野洲町埋蔵文化財発掘調査年報、平成11年度野洲町内遺跡発掘調査概要、大篠原西遺跡

能登川町教育委員会

能登川町埋蔵文化財調査報告書第49集　佐生北遺跡２次・石田遺跡６次

富来町教育委員会

山王丸山遺跡、高田遺跡、富来城跡発掘調査報告書

豊中市教育委員会

豊中市文化財調査報告第41集　上津島遺跡第５次発掘調査報告、同第47集　豊中市埋蔵文化財発掘調査概要平成11年度、荘園物語

高石市教育委員会

高石市文化財発掘調査概要1999-1　大園遺跡他の発掘調査概要

岸和田市教育委員会

岸和田市文化財調査概要26　平成11年度発掘調査概要、岸和田市埋蔵文化財発掘調査報告書８山直北遺跡、同９　春木宮ノ上遺跡

藤井寺市教育委員会

石川流域遺跡群発掘調査報告ＸＶ　藤井寺市文化財報告第20集

河内長野市教育委員会

河内長野市文化財調査報告書第32輯　河内長野市埋蔵文化財調査報告書ＸⅥ

八尾市教育委員会

八尾市文化財調査報告42　八尾市内遺跡平成11年度発掘調査報告書Ⅰ、同43　八尾市内遺跡平成11年度発掘調査報告書Ⅱ、弓削遺跡発掘調査報告書、心合寺山古墳

羽曳野市教育委員会

人物ハニワの世界、古市遺跡群ＸＸＩ　羽曳野市埋蔵文化財調査報告書38、羽曳野市内遺跡調査報告書平成８年度　同39

枚方市教育委員会

枚方市文化財調査報告第35集　枚方市埋蔵文化財発掘調査概要1999

阪南市教育委員会

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＶ

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市文化財報告書19　府道河内長野美原線歩道工事にともなう狭山藩陣屋跡発掘調査報告書Ⅱ、同20　大阪狭山市遺跡群発掘調査報告書Ⅱ

美原町教育委員会

美原町史　第一巻本文編

島本町教育委員会

モノと環境の民俗誌

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

兵庫県文化財調査報告書第161冊　砂入遺跡、同第195冊　高畑町遺跡Ⅲ、同第197冊　桍狭遺跡、同第199冊　波毛遺跡・川添遺跡

三田市教育委員会

三田焼の研究、さんだのいせき46～50・企画展45～49

加美町教育委員会

加美町文化財報告４　清水渦ノ本遺跡・豊部井杉遺跡

中町教育委員会

中町文化財報告22　思い出遺跡群Ⅱ、同23　安坂・城の堀遺跡群Ⅱ

八鹿町教育委員会

八鹿町の歴史探訪、兵庫県八鹿町文化財調査報告書第15集　竹ノ内古墳群

佐用郡教育委員会

平成９年度文化財調査年報、同平成10年度

和歌山県教育委員会

岩橋千塚周辺古墳群緊急確認調査報告書

岩出町教育委員会

平成９年度岩出町内遺跡発掘調査概報、同平成10年度

鳥取県教育委員会

むきばんだ遺跡全国フォーラム'99

出雲市教育委員会

西谷墳墓群、出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集、出雲市埋蔵文化財調査報告書第６集小山遺跡、斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書Ⅰ、同Ⅱ、三田谷Ⅰ遺跡、田畑遺跡、高岡遺跡

青谷町教育委員会

青谷町埋蔵文化財調査報告書15　青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅶ、同17　青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ、同18　青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅸ、同19　鳴滝宮ノ前遺跡発掘調査報告書

久世町教育委員会

久世町埋蔵文化財発掘調査報告４　五反廃寺

広島県教育委員会

中世城館遺跡保存整備事業発掘調査報告10　吉川元春館跡1998

庄原市教育委員会

庄原市文化財調査報告書第６集　妙見山遺跡、同第９集　郡原遺跡・永瀬遺跡、同第10集　唐櫃古墳

山口市教育委員会

山口市埋蔵文化財調査報告第72集　山口市内遺跡詳細分布調査

福岡県教育委員会

大宰府史跡平成11年度発掘調査概報、仁右衛門畑遺跡Ⅰ、船越高原Ａ遺跡Ⅰ、上唐原了清遺跡、福岡県埋蔵文化財発掘調査年報平成９年度、羽熊遺跡　福岡県文化財調査報告書第144集、陣山屋敷遺跡　同第145集、寄原遺跡・長者原遺跡同第146集、竹重遺跡　同第147集、森原・藤坂古墳群　同第148集、頓野横道遺跡・浦田池南遺跡　同第149集、横溝中島遺跡　同第150集、北大手木遺跡　同第151集、上別府沖代遺跡・上別府園田遺跡　同第152集、築城五反田遺跡・築城小迫遺跡　同第153集、西新町遺跡Ⅱ　同第154集、浦ノ田遺跡Ⅱ　同第155集

筑後市教育委員会

羽犬塚寺ノ脇遺跡　筑後市文化財調査報告書第

24集、筑後東部地区遺跡群Ⅲ　同25集、筑後西部第２地区遺跡群Ⅱ　同第26集、筑後西部第２地区遺跡群Ⅲ　同第27集、上北島花畑遺跡　同第28集、筑後西部地区遺跡群Ⅱ　同第29集、筑後東部地区遺跡群Ⅳ　同第30集

豊前市教育委員会

狭間宮ノ下遺跡　豊前市文化財調査報告書第13集、豊前市の岩戸神楽、豊前市内遺跡分布地図

朝倉町教育委員会

須川ノケオ遺跡　朝倉町文化財調査報告書第８集、同第９集　朝倉町の古墳と埴輪

那珂川町教育委員会

那珂川町文化財調査報告書第47集　合政遺跡群、同第48集　中原・ヒナタ遺跡群Ⅱ、同第49集　大薮池遺跡群・後野・山ノ神前遺跡群、同第50集　観音山古墳群Ⅴ、同第51集　前田遺跡群Ⅲ、同第52集　安徳台

芦屋町教育委員会

金台寺過去帳　芦屋町文化財調査報告書第10集

津屋崎町教育委員会

津屋崎町文化財調査報告書第16集　勝浦遺跡

三潴町教育委員会

三潴町の絵馬・狛犬

大刀洗町教育委員会

大刀洗町文化財調査報告書第19集　西森田遺跡２、同第20集　甲条神社遺跡Ⅱ、大刀洗飛行場燃料庫

大分県教育委員会

玉沢地区条里跡　大分県文化財調査報告書第105輯、其ノ田板碑　同第106輯、中原舟久手遺跡　同第107輯、千塚西遺跡　同第108輯、森の木遺跡　同第109輯、炭竈遺跡　同第110輯、小野家墓地発掘調査報告書　同第111輯、尾槽遺跡同第112輯、上ノ原平原遺跡　同第113輯、治別当遺跡、四日市上ノ原横穴墓群、瀬戸墳墓群・瀬戸遺跡・帆足城跡、大分県埋蔵文化財年報８

久住町教育委員会

小路遺跡・上屋敷遺跡、市第Ⅳ遺跡・トグラ遺跡・花立遺跡

宮崎県教育委員会

西都原古墳群、西都原古墳群発掘調査報告書第１集　鬼の窟古墳・西都原205号墳、宮崎県文化財調査報告書第44集　宮崎県文化財年報平成11年度、寺崎遺跡第８次調査、平成11年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書第42集　史跡生目古墳群、同第43集　北ヶ迫遺跡、同第44集　前田二月田遺跡、同第45集　黒太郎遺跡

北浦町教育委員会

北浦町文化財発掘調査報告書第１集　中野内遺跡

清武町教育委員会

清武町文化財調査報告書第５集　白ヶ野第１・第４遺跡、同第６集　滑川第１・第２・第３遺跡、同第７集　滑川第１・第２遺跡、同第８集　山田第１遺跡・山田第２遺跡

鹿児島市教育委員会

鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書26　一之宮遺跡Ｂ地点、同27　加治屋園遺跡Ｂ地点、同28　鹿児島(鶴丸)城二之丸跡Ｇ地点、同29　鹿児島紡績所跡Ｄ地点、同30　伊佐之原遺跡、同31　谷山城跡Ｅ地点

出水市教育委員会

出水市埋蔵文化財発掘調査報告書11　出水貝塚

沙流川歴史館

平取町文化財調査報告書13　亜別遺跡

えりも町郷土資料館

油駒遺跡

岩手県立博物館

岩手県立博物館調査研究報告書第16冊　小松洞穴発掘調査報告書、収蔵資料目録第16集　考古Ⅴ、研究報告第17号、岩手の経塚

北上市立博物館

和賀一族の興亡　総集編、北の下駄

東北歴史博物館

縄文時代の日本列島、研究紀要１、平成11年度年報

秋田県立博物館

年報平成12年度、研究報告第25号

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

常設展示図録

栃木県立博物館

研究紀要－人文－第17号

群馬県立歴史博物館

紀要第21号、所蔵資料目録　民俗Ⅱ

浦和市立郷土博物館

研究調査報告書第27集

(財)府中文化振興財団府中市郷土の森博物館

年報第13号、紀要第13号

出光美術館

館報第110号

大田区立郷土博物館

空の玄関・羽田空港70年

横浜市歴史博物館

資料目録第７集、移りゆく横浜の海辺、海とともに暮らしていた頃、秀吉襲来、中世の梵鐘、江戸時代のよこはま、紀要第３号、年報平成10年度版、幻の宮　伊勢神宮

茅ヶ崎市文化資料館

文化資料館調査研究報告８

平塚市博物館

ガイドブック17平塚の遺跡、年報第23号、自然と文化第23号

新潟県立歴史博物館

研究紀要創刊号

長岡市立科学博物館

研究報告第35号

氷見市立博物館

平成11年度年報第18号、陸田家文書その７

石川県立歴史博物館

加賀藩士、紀要第13号、年報第７号、祝い絵
岐阜県博物館
館報第23号、調査研究報告第21号
名古屋市博物館
研究紀要第23巻
名古屋市見晴台考古資料館
見晴台教室'99、なごや考古年表Ⅱ、研究紀要第２号、年報17、埋蔵文化財調査報告書33～35、尾張元興寺跡第７次、尾張元興寺跡第９次、下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
斎宮歴史博物館
花－世の中に絶えて桜のなかりせば
滋賀県立安土城考古博物館
平成11年度年報、紀要第８号
大阪府立弥生文化博物館
神々の源流
大阪府立近つ飛鳥博物館
装飾古墳と壁画古墳、館報５
吹田市立博物館
平成11年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
八尾市立歴史民俗資料館
館報平成９・10年度、研究紀要第11号、辻合喜代太郎氏収集染色資料調査報告書(目録)、河内国渋川郡久宝寺村高田家文書(近世分)目録
西宮市立郷土資料館
館報平成11年度
(財)辰馬考古資料館
展観の栞24、同25、考古学研究紀要３
播磨町郷土資料館
館報平成11年度
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
権威の象徴
香芝市二上山博物館
尼寺廃寺の瓦、香芝市埋蔵文化財発掘調査概報７、同９、同11
橋本市郷土資料館
館報第14号
広島県立歴史民俗資料館
くらしと道の歴史
山口県立山口博物館
研究報告第26号
下関市立考古博物館
研究紀要第４号、年報５
北九州市立考古博物館
年報平成11年度、研究紀要Vol. 7
ミュージアム知覧
鹿児島県知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第９集　厚地松山製鉄遺跡

東北大学埋蔵文化財調査研究センター
年報13
山形大学歴史・地理・人類学研究会
山形大学歴史・地理・人類学論集　創刊号
筑波大学歴史・人類学系
先史学・考古学研究第11号
早稲田大学本庄校地文化財整理室
下野谷遺跡Ⅱ、下柳沢遺跡、稲荷前遺跡
立正大学考古学研究室
立正考古第38・39合併号
日本大学史学会
史叢第61号
明治大学考古学博物館
明治大学記念館前遺跡
國學院大學考古学資料館
紀要第16輯
白山史学会
白山史学第36号、東洋大学文学部紀要第53集
東海大学史学会
東海史学第34号
名古屋大学文学部考古学研究室
名古屋大学文学部研究論集137　史学46、考古資料ソフテックス写真集第15集
滋賀県立大学人間文化学部
人間文化８号
大谷女子大学博物館
大谷女子大学博物館報告書第42冊　四天王寺、同第43冊　中津倉
帝塚山大学大学院人文科学研究科
紀要創刊号
天理大学考古学研究室
古事第４冊
島根大学埋蔵文化財調査研究センター
島根大学埋蔵文化財調査研究報告第５冊　島根大学構内遺跡第２・４・８次調査
岡山理科大学図書館
自然科学研究所研究報告第25号
広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
年報ⅩⅢ、同ⅩⅣ
熊本大学埋蔵文化財調査室
年報６
熊本大学文学部考古学研究室
考古学研究室報告第34集、同第35集
慶尚大學校博物館
慶尚大學校博物館研究叢書第21輯　陜川玉田古墳群Ⅷ、同第22輯　宜寧雲谷里古墳群

日本窯業史研究所
日本窯業史研究所報告第54冊　向原遺跡、同第55冊　北原東遺跡
大宮市遺跡調査会
大宮市遺跡調査会報告第66集　Ｂ－22号遺跡(土呂陣屋跡)、同第67集　側ヶ谷戸貝塚、同第68集　中里遺跡
東邦考古学研究会
東邦考古第24号
山武考古学研究所
年報No. 18
(株)ジャパン通信情報センター
月刊文化財　発掘出土情報第214号、同第218号増刊号
(株)三幸企画
三井グラフ119

(株)草の根出版会
対馬海流と出雲世界
(株)学生社
倭人伝の国々
宮内庁書陵部
書陵部紀要第49号抜刷、同第51号
国立国会図書館
日本全国書誌　通号2278号、同2282号、同通号2287号
都立学校遺跡調査会
本郷元町Ⅳ
四ッ谷前地区遺跡調査団
東京都日野市四ッ谷前遺跡
葛飾区遺跡調査会
平成10年度葛飾区埋蔵文化財調査年報、古録天東遺跡Ⅴ、葛飾区遺跡調査会報告第45集　立石遺跡Ⅵ、同第46集　立石遺跡Ⅶ
(株)エヌ・ティ・ティ・データ・土器塚遺跡調査団
土器塚遺跡(第２次調査)
日本考古学協会
日本考古学年報51、日本考古学第８号、地震災害と考古学Ⅰ
全国埋蔵文化財法人連絡協議会
大規模遺跡に配置された文化施設
東国歴史考古学研究所
東国歴史考古学研究所調査研究報告第12集　藤沢市No.419遺跡第１地点、同第13集　藤沢市No.419遺跡第３地点、同第15集　中世石窟遺構の調査Ⅱ、同第18集　藤沢市No.419遺跡第４・５地点、同第19集　藤沢市No.419遺跡第２地点、同第21集　二伝寺砦(藤沢市No.215)遺跡、同第22集　中世石窟遺構の調査Ⅲ、同第23集　曽野No.１遺跡、同第24集　北条時房・顕時邸跡、同第25集　極楽寺中心伽藍跡群遺跡、同第26集　池子桟敷戸遺跡
玉川文化財研究所
恩名沖原遺跡発掘調査報告書、千年伊勢山台北遺跡、小田原城三の丸東堀第Ⅳ地点、上吉沢市場地区遺跡群、米軍キャンプ座間地内遺跡
上野市遺跡調査会
上野市文化財調査報告65　中谷１号墳・中谷遺跡発掘調査報告、同66　上野城跡２次
(財)古代學協會
古代文化第52巻第４～６号
大阪国際センター
平成11年度ＯＤＡ民間モニター報告書
姫路市立城郭研究室
年報VOL.９
宮内庁正倉院事務所
正倉院紀要第22号
奈良国立文化財研究所
研究論集Ｘ、同ＸＩ、山内清男考古資料11、中世瓦の研究、信仰関連遺跡調査課程
法相宗大本山興福寺
興福寺
大和弥生文化の会
みずほ第33号
島根県古代文化センター
しまねの古代文化第７号、島根県古代文化センター調査研究報告書８　出雲国大原神職神楽、古代文化研究第８号
岡山県古代吉備文化財センター
岡山県埋蔵文化財発掘調査報告151　津島遺跡２
(社)嶺南文化財研究院
嶺南埋蔵文化財研究院學術調査報告第15冊　大邱時至地區生活遺蹟Ⅰ、同第16冊　慶州城東洞386-6番地生活遺蹟、同第17冊　尚州柳谷里古墳群、同第18冊　慶山林堂洞遺蹟Ⅰ、同第19冊　慶州舎羅里遺蹟Ⅰ、同第20冊　大邱八達洞遺蹟Ⅰ

京都市埋蔵文化財調査センター
京都市内遺跡発掘調査概報平成11年度、京都市内遺跡試掘調査概報平成11年度、京都市内遺跡立会調査概報平成11年度
(財)向日市埋蔵文化財センター
向日市埋蔵文化財調査報告書第50集
(財)長岡京市埋蔵文化財センター
長岡京市埋蔵文化財調査報告書第17集　長岡京跡右京第650次・今里遺跡発掘調査報告、同第18集　長岡京跡右京第664次・神足遺跡発掘調査報告
京都府教育委員会
京都府文化財総合目録
久美浜町教育委員会
京都府久美浜町文化財調査報告書第21集　日光寺遺跡・橋爪遺跡
岩滝町教育委員会
岩滝町文化財調査報告書第15集　大風呂南墳墓群
三和町教育委員会
産屋トークⅡ
大山崎町教育委員会
大山崎町文化財年報平成10年度、大山崎町埋蔵文化財調査報告書第20集　山崎国府跡第49次調査、同第21集　大山崎町第29次遺跡確認調査
城陽市教育委員会
城陽市埋蔵文化財調査報告書第38集
八幡市教育委員会
八幡市埋蔵文化財発掘調査概報第30集
宇治田原町教育委員会
宇治田原町埋蔵文化財発掘調査概報　第１集
木津町教育委員会
樋ノ口遺跡第３次発掘調査報告書　木津町埋蔵文化財調査報告書第12集、樋ノ口遺跡第４次発掘調査報告書　同第13集
京都府立総合資料館
資料館紀要第28号
京都市歴史資料館
京都市の文化財第12回

園部文化博物館
タイムカプセル、常設展示図録、館報創刊号(1999)
日吉町郷土資料館
日吉の歴史と文化
宇治市歴史資料館
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第42集　西笠取遺跡発掘調査概報、同第46集　白川金色院跡発掘調査概報、同第47集　宇治市街遺跡発掘調査概報、同第48集
城陽市歴史民俗資料館
城陽市民俗調査報告書第２集
立命館大学文学部日本史学専攻考古学コース
長野市宮崎遺跡
京都橘女子大学
研究紀要第26号
佛教大学文学部
文学部論集第84号
京都府立ゼミナールハウス
安定社会の総合研究
精華町の自然と歴史を学ぶ会
波布理曽能第17号
宗教法人曼殊院
曼殊院書院庭園記念物(上之台所)保存修理工事報告書
大野左千夫
和歌山の焼きもの
河野一隆
松河戸遺跡
椚　國男
多摩考古第30号
小山雅人
1999年度　出土品図録
中尾芳治
アンコール遺跡の考古学
三浦純夫
加賀・能登　歴史の窓
遊佐和敏
東邦考古第24号

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター設立20周年記念特別展覧会

京都・時を旅して

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、昭和56年の設立以来、京都府内の発掘調査を行い大きな成果をあげてきました。今年は20周年という節目に当たり、その調査成果を一堂に集め、広く府民に公開する記念展覧会「京都・時を旅して」ならびに特別講演会「京都・古代の輝き」を開催いたします。また、この展覧会は平成12年11月18日～12月24日には京都府立山城郷土資料館、平成13年４～５月(予定)には京都府立丹後郷土資料館へ巡回いたします。

展覧会　「京都・時を旅して」
期　間　平成12年10月１日（日）～10月29日（日）【入場無料】
＊休館日は毎月曜日のほか、３日(火),10日(火)
＊開館時間は10：00～17：00（入館は16：30まで）
場　所　向日市文化資料館　　２階　研修室　および　１階　エントランス
展示品　昭和56(1981)年度から平成11(1999)年度の当調査研究センターの出土遺物および遺跡の写真パネル(主展示)・装飾品と玉作り関係遺物(特設コーナー)
高山古墳群(丹後町)・赤坂今井墳丘墓(峰山町)・遠所遺跡(弥栄町)・奈具岡遺跡(弥栄町)・奈具岡北1号墳(弥栄町)・大風呂南墳墓(岩滝町)・志高遺跡(舞鶴市)・浦入遺跡(舞鶴市)・私市円山古墳(綾部市)・塩谷古墳群(丹波町)・篠窯跡群(亀岡市)・長岡京跡(向日市・長岡京市)・平安京跡(京都市)・聚楽第跡(京都市)・奈良山瓦窯跡群(木津町)・樋ノ口遺跡(木津町)・瓦谷古墳群(木津町)・上狛天竺堂古墳(山城町)ほか。

講演会　「京都・古代の輝き」
場　所　向日市民会館　　**日　時**　平成12年10月14日(土)　13:30～
講　師　上田正昭京都大学名誉教授・水野正好奈良大学教授

編集後記

記録的な酷暑もようやく過ぎ、皆様、お変わりありませんか？今年は、10月に当調査研究センター設立20周年記念特別展覧会と特別講演会を開催します。お誘い合わせの上、お越し下さい。さて、本号は頁数は少ないながら、久しぶりに近世の陶磁器を取り上げた力作が寄せられ、京都らしい歴史の重みを再確認しました。また、編集作業中に、日本最大の木製大仏が安置された方広寺の発掘成果が報道されました。歴史上の人物の息づかいが感じられるようで、考古学の興味は尽きません。

（編集担当＝河野一隆）

京都府埋蔵文化財情報 第77号

平成12年9月26日

発行　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877（代）　Fax　075-922-1189(代)

印刷　三星商事印刷株式会社
〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961（代）

KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER